

# 仮名書き大学・仮名書き中庸

臨南寺現蔵の、二条家旧蔵本『仮名書き四書』（全八帖）とは南宋の朱熹（一一三〇—一二〇〇、敬称は朱子）の『大学章句』『論語集注』『孟子集注』『中庸章句』の仮名書き四種の典籍である。「四書」と謂ふ呼称は、北宋の程頤（一〇三三—一一〇七）が「大学」「中庸」を『礼記』中から特に顕彰して各一篇づつに独立せしめ、『論語』『孟子』に配して、『六経』にも先行すべき学習書としたことに起因する。その後、朱熹が淳熙（一一七四—一一八九）中に所謂「集注」を著述したことに拠り世に盛行し、本邦にもさながらに受容せられるに到ったものである。四書の順序は、明代の初めに、刊行書肆の編輯上の分量面から都合によって、その順序が「学・庸・論・孟」ともせられたが、歴史的にはやはり「学・論・孟・庸」とするのが正當なのである。

朱熹は『大学』を孔子の教義の授受と言ふ学統の上に、

片山晴賢  
木村晟

即ち儒学の發展上に位置付けをし、『大学』の経書としての性格を決定的なものにした。畢竟、「朱子学」と称せられる所以である。また朱熹は『中庸』を解釈し行く過程に於いて、原典に明確でない陰陽・五行・理などの観念を補入増修して、彼独自の哲理を形成したのである。この点は朱子学の理会に特に肝要なことであると思ふ。『論語』と『孟子』の朱熹の「集注」についても述べるべき点が多いが、今はこれを割愛して、今後公刊すべき続篇に一切を譲ることとする。

処で、本邦中世に於ける朱子学の享受の情況は、鎌倉時代末期から戦国時代にかけて、京都の南禅寺を始めとする五山と鎌倉の五山とが、共に朱子学伝習の淵藪となったのである。この期の禅林の学僧として、虎関（一二七八—一三四六）・中巖（一二三〇—一三七五）・義堂（一二三五—一四二四）等の名が挙げられるが、義堂の門下の岐陽（一

三六三—一四二四)が『四書集注』に和訓を付して講義をしたことは、四書の訓読史上特に注目せられる。更にこれら朱子学尊重の気運は、禅僧から博士家の学問の世界にも格別な変化をもたらして、清原業忠などは家学とする『五経古注』の他に「四書」をも加へ、殊に『大学』と『中庸』とは朱子注に拠つてゐるのである。また歌学・注釈の方面で名を挙げた一条兼良も、やはり朱子学に基づいて彼の『大学童子訓』を著述した。更に神道関係では、吉田兼俱も朱子学の教理を自らの道に導入するなど、この期の朱子学の受容には瞠目すべきものがある。

京都・鎌倉以外の地方でも、朱子学は確実に浸潤してをり、上杉憲実の足利学校や、肥後の菊池氏、薩摩の島津氏等の知遇を受けた藩儒が「四書」の講義や注釈、刊行事業を営むこともなった。かくて江戸時代に入って慶長年間ともなると、朱子学を専らとする藤原惺窩(一五六—一六一九)や、その門弟林羅山(一五八三—一六五七)らが徳川幕府に漸次重く用ゐられる処となつて、江戸時代三〇〇年間、朱子学が教学の主流を占める方向を決定的ならしめたのである。幕府の安定と相俟つて、全国の各藩に藩学が設立せられ、朱子学が一層流布し興隆を極めたことは言を俟たぬ処である。

斯様にして、朱子学を主流とする「四書」の講読が盛んとなり、その和刻本が全国的に限なく使用されると、和刻

本(訓点付の版本)が至極一般的なものとなつてゐたのに、何故本書の如き「仮名書き」の四書が出現し得たのか。もつとも本書以前にも室町書写にかかる安田文庫旧蔵本『仮名書き論語』(天理図書館蔵)も存するが、これらは鎌倉期成立の仮名書き『法華経』(妙一記念館本・足利本他)や、『観無量寿経』『阿弥陀経』等の仮名書き經典類とも連関させて考慮に入れねばならぬであらう。蓋し何故に、これらポピュラーなる仏典や漢籍が殊更らに「仮名書き」にせられねばならなかつたのか。かかる言語生活史上の一種の営為に関して、その理由を索めるならば、やはり一般大衆に、更に汎くこれらの典籍を浸透せしめる要として、最も判り易い「仮名書き」の方法を採るに到つたのではないかと思慮せられる。

吾が臨南寺本『仮名書き四書』は、美濃判の料紙を横に上下に折り、恰も連歌の懷紙に似た体裁のものとなつてをり、八帖全てが横長のものになつてゐる。書写の年代は識語の類が一切存せぬため明確にし得ないが、その料紙は江戸時代末期のものかと判ぜられる。各帖には若干の本文抹消・補入の箇所が存しはするが、本書はやはり草稿本ではなく転写本なのではないかと考へられる。従つて本書の国語史料としての性格や価値についての位置付けは、悉く本文に具現する内部徴証に基づいてなされねばならない。語法面では、ままた伝統的な訓法が踏襲せられる故に、安易に判

断することなく、慎重を期せねばならぬが、表記の面ではかなり豊富にその書写・成立の年代を反映する事象が見られるのではないかと思はれる。結論的に言って、本書の成立は江戸中期にまで遡り得るのではないかと、吾人は今考へてゐる。

なほ、この臨南寺蔵『仮名書き四書』は一九九四年四月に「臨南寺学術研究資料集成」第一として、臨南寺東洋文化研究所から影印・公刊せられてをり、表記面からする豊富な用例を掲出した「解題」も付せられてゐる。

また、これの全体に亘る『研究篇』の原稿も既に近思文庫のスタッフによって作成が進捗してゐる。近く公刊されることになるだらう。

## 凡例

一、これは『臨南寺蔵 仮名書き四書』（全八帖）の内の『仮名書き大学』（一帖）を『仮名書き中庸』（一帖）の二種を翻字したものである。

二、翻字の底本は『臨南寺蔵 仮名書き四書』（一九九四年四月 臨南寺東洋文化研究所刊）に拠った。

三、翻字本文の作成に際しては、近思文庫翻字の規準たる次の1-4の原則に従った。

1 原本一行を「翻字本文」の一行にした。

2 原本には存しない原典の漢字を（ ）内に宛てて、読解に資することとした。

3 濁音や仮名遣ひの注記を（ ）内に施した。

4 本文の頭部に冠した□内の漢数字は、底本たる『臨南寺蔵 仮名書き四書』（一九九四年四月 臨南寺東洋文化研究所刊）所収の「影印版」の章段を示したものである。

經一章

(学) (章句) (朱熹) (やう) 大 かく (日) しゆき しようふく

序

(子程子) (い) (だいが) (遺書) していしの ゆはく 大 かくは

(孔子) (る) ころしの いしよにして

(初学) (徳) (いる) (門) しようかく とくに 入の もん

(也) (いま) (於) (古人) なり 今 において こしん (じ)

(学) (為) (次第) (を) (見) かくを する していお みつ

(可) (もの) (独) (この) (存) へき物 ひとり 此へんの せん

(ぜ) (頼) (而) (う) (論) せるに よる しかふして ろん

(孟) (これ) (つぐ) (が) (しや) (必) (ず) もふ 是に次 かく者 かならず

(これ) (由) (学) (べば) (その) (差) 是に よつて まなへは 其 た

(が) (ぎ) (遮) かはざるに ちかし

(学) (みち) (徳) (だい) (が) (めい) (明) 大かくの道 は 明とくを あき

(在) (たみ) (親) らかにするに あり 民お あら

(在) (至善) (止) たにするに あり しせんに と、

(在) まるに あり

(止) (ど) (知) と、まることを しつて

(而) (う) (のち) (さだまる) (有) しかふして 後に 定 こと あり

(さだまる) (知) (而) (う) (のち) 定 ことを しつて しかふして 後に

(能) (静) (静) よく しつかなり しつかにして

(后) (能) (やすん)

(而) (う) (のち) (能) (やすん)

しかふして後に よく 安し

(じ)

(やすん) (而) (う) (后)

安して しかふして のちに

(能) (慮) (ば) (慮) (ば)

よく おもんはかる おもんはかつて

(后)

(而) (う) (のち) (能) (得)

しかふして 後に よく う

(事)

(物) (本来) (有) (わ) (終)

こと ほんばつ あり はざし

始 (有) (先後) (こう) (ところ) (を)

うしあり せんかふする所 お

(知) (ば) (則) (みち) (近)

しれは すなはち 道に ちかし

(古) (明德) (を) (てんか)

いにしへの めいとくお 天下に

(者)

(明) (欲) (もの)

あきらかにせんと ほつする物は

(まづ) (そのくにを) (をさむ) (そのくにを)

先 其国 お 治 其国 お

(治)

(を)

おさめん

(者)

(欲) (もの) (まづ) (そのいへを)

と ほつする物は 先 其家お

(を)

(齊) (そのいへ)

と、のふ 其家お と、の

(者)

(欲) (もの)

へんと ほつする物は

(修)

(そのみ) (をさむ) (そのみ)

其身 治 其身 治めんと

(治)

(欲) (もの) (まづ) (そのころを)

ほつする物は 先 其心 お

(だ)

(正) (そのころを) (正) (だ)

た、しうす 其心 おた、

(欲) (もの)

しうせんと ほつする物は

(意)

(まづ) (その) (を) (まこと) (その) (を) (まこと)

先 其い お誠にす 其い お誠 に

(意)

(欲) (もの)

せんの ほつする物は

(先) (づ)

(知)

(その) (を) (致) (その) (知を) (致)

其ち おいたす 其ち おいたす

は物お (もの) (を) (格) (在) いたすに あり

(物) (格) (而) (う) (のち) (后) こと いたつて しかふして 後に

(知) (至) (而) (う) (のち) (后) ち いたる ち いたつて しかふ

(のち) (意) (誠) (意) (事) (後) して 後に い ますあり い

(誠) (而) (う) (正) ますあつて しかふして

(のち) (こころ) (だ) (こころ) (だ) (正) 後に 心 た、し 心 た、

(而) (う) (のち) (修) しようして しかふして 後に

(み) (を) (み) (を) (身) おさまる 身 おさま

経一章

(而) (う) (のち) (家) っつて しかふして 後に いへ

(齊) (いへ) (齊) (う) (而) (う) と、のふ 家 と、のふて しかふ

(のち) (后) (を) (くに) (治) (くに) して後に 国おさまる 国

(治) (を) (而) (う) (のち) (后) おさまつて しかふして 後に

(てん) (下) (たひらか) (なり) 天か 平 成

(子) (てん) (自) (以) (庶) 天し より もつて しょ

(人) (至) (で) (壹) (これ) しんに いたるまで いつに 是

(皆) (み) (を) (を) (以) (脩) みな 身 おさむるお もつて

(本) (本) (本) もと、す

(その) (乱) (だ) (すゑをさまる) 其 もと みたれて 末 治

(もの) (否) (じ) (その) (厚) 物は あらし 其 あつうする

(ところのもの) (薄)  
所物 うすうして 其う (その) (薄)

(ところのもの) (厚)  
すうする 所物 あつきこと

(未だ) (これ) (有) (ず)  
いまた 是 あらす (章) (だ)

(みぎ) (経) (いつしやう)  
右 けい 一生は (蓋) (だ)  
けたし

伝首章

(孔子)

(う) (言)  
こふしの ことにして (曹)

(子) (これ) (述)  
し 是 を のふ

(そので) (伝) (十章)  
其てん (じふ)  
しうしやうは (則) すな

(曾) (子) (意)  
はち そうしの いにして (門) もん

(人) (記)  
(じ) (これ) (記) (旧) (本)  
しん 是 を きす きうほん

(頗) (ぶ) (錯簡) (有) (いま)  
すこふる さつかん あり 今

(程子) (定) (ところ) (因)  
ていしの さたむる 所に よつて

(更) (ぶ) (を) (考) (が) (別)  
さらに けいふんお かんかへ わか

(如) (左)  
つて しよしお なすこと さの

(如) (左)  
ことし

(康) (誥) (日) (克) (徳)  
(かうかう) (い) (い) (徳)  
こふこふに ゆはく よく とく

(を) (明) (たいか)  
お あきらかにす 大こふに

(日) (この) (てん) (明命) (めいを) (顧)  
(い) (てん) 此 天の めいく おかへりみる

(帝典) (い) (日) (克) (峻)  
てい天に ゆはく よく しゆん

(徳) (を) (明) (なり)  
とくお あきらかに する成

(伝) (みぎ) (でん) (首章) (明) 右 天の しゅしやうは めい  
(徳) (を) (明) (を) とくお あきらかに することお  
(釈) せきす

伝二章

(湯) (盤) (銘) (日) (た) (ばん) (い) とうの半のめいに ゆはく  
(まこと) (ひび) (新) (なり) (ひ) 誠に 日々に あらた成 日に

(ひ) (新) (また) (ひび) ひに あらたにして 又 日々に

(新) (なり) あらた成 (康誥) (日) (かうかう) (い) (新) こふくに ゆはく あらたに

(民) (を) (作) する たみお おこす

(日) (周) (旧邦) (詩) (い) (し) (は) しに ゆはく ちう きうほうと

(雖) (ど) (其) (命) (これ) (新) いへとも その めい 是 あらた

(なり) 成

(そのいへ) (くんし) (其) (極) 其 家に 君子は その きよく

(を) (用) (ひぎ) (ところ) (無) おもちいさる 所 なし

(伝) (章) (みぎ) (でん) (に) (しやう) (たみ) (新) 右 天の二生は 民 お あら

(を) (釈) たにすることを せきす

(詩) (い) (邦畿) (せんり) しに ゆはく ほうき 千里

(これ) (たみ) (止) (ところ) 是 民の と、まる所

(詩) (い) (緑蛮) (黄) しに ゆはく めんはんたる こう



(鳥) (丘隅) (ど)  
(う) (ど) (止)  
てふ きうくうに と、まる

(子) (日) (は) (止) (ど)  
し のたまわく と、まるに

(於) (その) (止) (ところを)  
おいて 其と、まる所 お

(知) (ひとを) (以) (鳥) (如)  
しる 人 お もつて とりに しか

(可) (日) (詩) (い) (い)  
さるへけんや しに ゆはく

(穆穆) (ぼく) (文王) (う) (於)  
ぼくくたる ぶんのふ あ、

(緝) (熙) (敬)  
しうきにして けいして

(止) (ど) (為)  
と、まる

(ひと) (きみ) (仁) (止) (ど)  
人の 君 としては じんにと、

(り) (ひと) (臣) (為) (敬)  
まる 人の しんとしては け

(止) (ど)  
いに と、まる

(ひと) (こ) (為) (かう) (ど)  
人の 子と しては こふにと、

(ひと) (父) (為)  
まり 人の ち、としては じに

(止) (ど) (人) (人) (止)  
と、まり

(こくみん) (交) (は) (信)  
国 民と ましわるには しんに

(止) (ど) (日)  
と、まる

(詩) (い) (彼) (淇) (涅) (を)  
しに ゆはく かの きの くまお

(瞻) (ば) (纂) 竹 (猗) 猗  
みれは りよくちく い、たり

(斐) (くんし) (有)  
ひたる 君子 あり

(切) (が) (ご) (磋) (が) (ご) (如)  
きるかごとく みかくか ごとく

(琢)が(ご) (磨) (如)  
うつか ことく とくか (ご) ことし

(瑟) (潤) (赫)  
しつたり かんたり かくたり

(喧) (斐) (くんし) (有)  
けんたり ひたる 君子 あり

(終) (誼) (べ) (ず)  
ついに わするへからず

(切)が(ご) (磋)が(ご) (如)  
きるか ことく みかくか ことし

(学)を(道) (磨) (ぐ)が  
とは かくお いふ成 とくか

(如) (づ) (を) (さむ) (なり)  
ことしとは みつから 治る 成

(瑟) (間) (恂)  
しつたり かんたりとは しゆん

(慄) (なり) (赫) (喧)  
りつ成 かくたり けんたり

(る) (なり) (斐) (くんし)  
とは いぎ 成 ひたる 君子

(有) (終) (誼) (べ) (ず) (可)  
あり ついに わするへからずとは

(盛徳至善) (ぜ) (民) (忘)  
せいとくしせん たみの わす

(能) (ぎ) (を) (道) (なり)  
ること あたはさるお いふ 成

(詩) (い) (於戯) (ぜ) (う) (忘)  
しに ゆはく あ、せんのお わす

(ず) (くんし) (その) (賢) (を) (賢)  
れす 君子は 其 けんお けんとして

(その) (を) (親)  
其 しんお しんとす

(せうじん) (其) (樂)  
小 人 は その たのしみ

(を) (樂) (で) (その) (利) (を) (利)  
お たのしんで 其 りお りと

(此) (を) (以) (世) (没)  
す こ、おもつて よお おくる

(で) (忘) (ず)  
まで わすれす

伝四章

右 (みぎ) (伝) (でん) (章) (しょう) (至善) (しぜん) (せ) (ぜん) 天の (てん) (さん) (しやう) (さん) (は) (しぜん) (に)

(止)

(ど) (を) (釈) (せきす) と、まることお

(子) (日) (は) (訟) (し) (の) (たまわく) (う) (つた) (へ)

(を) (聴) (吾) (猶) (ひと) (ご) (如) (お) (き) (く) (こ) (と) (わ) (れ) (な) (を) (人) (の) (こ) (と) (し)

(必) (ず) (訟) (無) (かな) (ら) (ず) (う) (つた) (へ) (な) (か) (ら) (し) (め) (ん) (か)

(情) (者) (じやう) (無) (もの) (其) (辞) (ばを) (つく) (誠) (なき) (物) (は) (その) (こと) (は) (お) (尽) (す)

(を) (得) (おほ) (民) (こと) (お) (え) (す) (大) (いに) (た) (みの)

(こ) (ころ) (を) (を) (を) (を) (心) (さ) (し) (お) (お) (せ) (れ) (し) (む) (是) (これ)

伝五章

(を) (本) (知) (謂) (お) (も) (と) (を) (し) (る) (と) (ゆ) (ふ) (みぎ) (でん) (し) (し) (やう) (本) (末) (を) (右) (天) (の) (四) (生) (は) (ほん) (まつ) (お) (を)

(釈) (これ) (本) (を) (知) (せき) (す) (是) (お) (も) (と) (お) (し) (る)

(謂) (これ) (を) (ち) (至) (と) (ゆ) (ふ) (是) (お) (し) (の) (いた) (る)

(い) (謂) (い) (伝) (章) (と) (ゆ) (ふ) (みぎ) (でん) (ご) (し) (やう) (蓋) (だ)

(物) (を) (格) (知) (を) (いた) (こと) (お) (いた) (し) (ち) (お) (致) (す) (の)

(義) (を) (釈) (き) (お) (せき) (す) (而) (う) (今) (亡) (しか) (ふ) (して) (いま) (ほ) (ろ)

伝六章

(を) (得) (おほ) (民) (こと) (お) (え) (す) (大) (いに) (た) (みの)

(こ) (ころ) (を) (を) (を) (を) (心) (さ) (し) (お) (お) (せ) (れ) (し) (む) (是) (これ)

(び) (このご) (間) (嘗)  
 ひたり 此 ころ かつて  
 (竊) (程子) (意を)  
 ひそかに ていしの いお  
 (取) (以) (これを)  
 とつて もつて 是 お  
 (補) (曰) (所謂)  
 (ぎなう) (い) (は)  
 おきのふて ゆはく いわ  
 (知を) (致) (物を)  
 ゆる ちお いたすは ことお  
 (格) (在) (い) (い)  
 いたすに ありとは ゆふは  
 (吾) (知) (致) (欲)  
 (が) (を) (を) (を)  
 わか ちお いたさんと ほ  
 (ば) (物) (即) (その)  
 つせは ことに ついて 其り  
 (は) (在)  
 (を) (窮) (を) (在)  
 おきわむるに あり  
 (だ) (人 心)  
 (蓋) (じ) (霊)  
 けたし しんしんの れい

(知) (有) (ぎ) (莫)  
 ち あらざること なし  
 (而) (う) (てんか) (こと)  
 しかふして 天下の 事  
 (理) (有) (ぎ) (莫)  
 り あらざること なし  
 (だ) (惟) (理) (於) (未) (だ)  
 (は) (は) りに おいて いた  
 (窮) (ぎ) (有)  
 きわめざること あり  
 (故) (が) (忍) (その) (つく)  
 かるかゆへに 其ち 尽さ  
 (ぎ) (有)  
 さること あり  
 (を) (を) (学)  
 (是) (以) (だいが)  
 こ、お もつて 大かくの  
 (じ) (教) (学者)  
 (始) (を) (必) (ず) (が) (を)  
 はしめの おしへ かならず かくしやおして  
 (凡) (てん下)  
 およそ 天 か

(物) (で)

(こと) (即) (その) (己)

の事に ついて 其 すでに

(ます)

(知) (理) (因) (益) (益)

しるの りに よつて ますく

(を) (は)

(これ) (窮) (その) (極)

はお きわめて 其 きよく

(至) (を) (求) (ぎ)

に いたることお もとめざる

(莫) (力) (を)

こと なからしむ ちからお

(用ひ) (ひき)

もちいるの 久 しようして

(一旦) (豁然) (ぜ)

いつたん くわつせんとして

(貫) (通)

くわんつうするに いたつては

(則) (表) (裏)

すなはち

(衆物) (へ) (う) (精)

しうぶつの ひよふり せい

粗 (到) (ぎ) (無)

そ いたらざるごと なくして

(が)

(吾) (こころ) (全體) (大用) (う)

わか 心の ぜんてい たいよふ

(明) (ぎ) (無)

あきらかならざるごと なし

(これ) (を)

はお (物) (格) (謂) (い) (これ) (を)

こと いたると ゆふ 是 お

(知) (至) (い) (謂) (い) (これ) (を)

ちの いたると ゆふ

(は) (を)

(所謂) (其) (意) (まこと)

いわゆる そのいお 誠にすとは

(づ) (ぎ)

(自) (欺) (母)

みつから あさむくこと なき

(悪臭) (を) (悪)

なり あくしうお にく

(如) (好) (色)

(が) (ご) (かう) (を)

むか ことく こふしよくお

(好) (が) (ご) (これ) (之)

このむか ことし 是 お これ

(如) (を)

(好) (が) (ご) (これ) (之)

このむか ことし 是 お これ

(好) (が) (ご) (これ) (之)

このむか ことし 是 お これ

(自) (謙) (謂)  
 (づ) (ごころ) (い)  
 みつから 心よし とゆふ  
 (故) (が) (ゑ) (くんし) (必)  
 かるかゆへに 君子は かな  
 (ず) (其) (獨) (を) (慎)  
 らす その ひとりお つゝしむ  
 (小) (せ) (じん) (間居)  
 しやう人 かんきよして  
 (不善) (を) (為) (至) (ぎ)  
 ふぜんお なす いたらざる  
 (ところ) (無)  
 所 なし  
 (くんし) (を) (見) (而) (う)  
 君子 お みて しかふして  
 (后) (厭然)  
 のち あんぜんとして  
 (その) (不善) (を) (搶) (その) (善)  
 其 ふぜんお おゝて 其の ぜん  
 (を) (著)  
 お あらはす

(ひと) (己) (を) (視) (こと)  
 人の おのれお みる 事  
 (其) (肺肝) (を) (見) (が) (ご)  
 その はいかんお みるか ことく  
 (然) (則) (何) (益)  
 しかり すなはち なんの えきか  
 (を) (これ) (まこと)  
 あらん 是お うちに 誠  
 (ば) (そと) (形)  
 あれは 外に あらはると  
 (謂) (い)  
 ゆふ  
 (故) (が) (ゑ) (くんし)  
 かるかゆへに 君子は  
 (其) (ひとを) (慎) (獨)  
 その 一りお つゝしむ  
 (曾子) (曰) (十)  
 そうしの ゆはく じう  
 (目) (視) (ところ) (じふしゆ) (十手)  
 もくの みる所 じうくくの

(指) (び) (ところ) (其) (厳)  
ゆひさす 所 それ けん

(平)  
なるかな

(富) (屋) (を) (潤) (ほ)  
とみは いへお うるおし

(徳) (身) (を) (潤) (ほ)  
とくは みお うるおす

(広) (體)  
心 (こころ) ひろく 手い ゆ

(故) (が) (を)  
たかなり かるかゆへに

(くんし) (必) (ず) (其)  
君 子は かならず その

(意) (まこと)  
いお 誠 にす

(伝) (章)  
(みぎ) (でん) (六) (しやう)  
右 天の りく生

(意) (を) (まこと)  
いお 誠 に することお

伝七章

(積) (は) (所) (謂) (身) (を)  
せきす いわゆる みお

(脩) (を) (其) (こころ) (を)  
おさむるは その 心 お

(正) (だ) (在)  
た、しうするに あり

(心) (こころ) (忿) (懣) (と) (ころ) (有)  
ふんち する所 あれ

(ば) (則) (其) (正) (だ)  
は すなはち その た、しき

(を) (え) (得)  
お へず

(恐懼) (と) (ころ) (有) (ば)  
きよふくする所 あれは

(則) (其) (正) (だ)  
すなはち その た、しき

(得) (好) (樂) (を) (ず) (か) (う) (と) (ころ)  
お えす こふらくする所

(有) (ば) (則) (其) (正) (だ)  
あれは すなはち その た、  
(得) (憂) (患)  
しきお へす ゆうくわん  
(を) (えず) (い)

(ところ) (有) (ば) (則)  
する所 あれは すなはち  
(だ) (得)

(其) (正) (を) (えず)  
その た、しきお へす  
(是)

(こころ) (在) (ぎ) (ば)  
心 こゝに あらさ ね は  
(えず)

(視) (見) (聴) (聞)  
みて みへす きいて きこ  
(食)

(えず) (らう) (其) (味)  
へす くろふて その あ

(ぢ) (ひを) (知) (ず)  
しはいお しらす  
(を) (脩)

(これ) (みを) (を)  
是 お 身お おさむるは  
(を) (だ)

(其) (こころ) (正)  
その 心 お た、しうするに

伝八章

(在) (謂) (い)  
ありと ゆふ  
(伝) (章)  
右 (みぎ) (でん) (しちしやう)  
天の 七生 は

(こころ) (を) (だ) (み)  
心お た、しふし 身  
(脩) (を) (釈)

お おさむることお せきす  
(は) (積)

(所謂) (其) (家) (を) (齊)  
いわゆる その いへおと、

のふるは (そのみを) (脩)  
其 身お をさ

むるに (在) (ありとは)

(ひと) (其) (親) (愛) (ところ)  
人 その しんあいする 所に

(之) (辟) (其) (賤)  
おいて へきす その せん



(悪) (ところ) (之) (辟)  
おする 所に おいて へきす  
(畏敬)  
(その) (る) (ところ) (之)  
其 いけいする 所に おいて

(辟) (その) (哀矜)  
へきす 其の あいきやう

(ところ) (之) (辟)  
する所に おいて へきす

(其) (敖) (情)  
その ごふさする 所に

(之) (辟) (故) (が)  
おいて へきす かるか

(忽) (好) (其)  
ゆへに よみして その

(悪) (を) (知) (悪) (で)  
あしきお しり にくんて

(善) (下)  
(その) (を) (知) (もの) (てん)  
其 よき お する 物は 天かに

(鮮)  
すくなし

(故) (が) (忽) (諺) (ぎ) (之)  
かるか ゆへに ことはさに 是 (これ)

(有) (い) (ひと) (其)  
あり ゆはく 人 その

(子) (悪) (を) (知) (莫)  
この あしきお すること なし

(其) (苗) (おほ) (を) (知)  
その なへの 大いなるお する

(莫) (これ) (を) (み) (を)  
こと なし 是 お 身 お

(ぎ) (ば) (以)  
さまらされは もつて

(其) (家) (を) (斉) (べ) (可)  
その いへお と、のふへから

(ず) (い) (謂)  
すと ゆふ

(みぎ) (伝) (章)  
右 (でん) (はつしやう)  
天の 八生 は

(み) (を) (脩) (家) (を) (斉)  
身 お をさめ いへお と、のふ

伝九章

ことお (を) (積) (は) (所謂)  
せきす いわゆる

国 (くにを) (を) (必) (ず)  
お おさむるは かならず

(先) (其) (家) (を) (齊)  
まつ その いへお と、のふとは

(其) (家) (を) (べ) (ず)  
その いへ おしゆへからずして

(能) (ひと) (を) (もの)  
よく 人お おしゆる物 は

(これ) (之) (無)  
是 なし

(故) (が) (急) (くんし)  
かるか ゆへに 君子 は

(家を) (い) (で) (ず) (を) (を)  
いへお 出すして おしへお

(くに) (成)  
国に なす

(孝) (かう) (きみ) (事) (う)  
こふは 君に つかふまつる

(所以) (弟) (ちやう)  
いへんなり ていは てふに

(事) (う) (ゆ急) (所以)  
つかふまつる いへんなり

(慈) (衆) (使) (ゆ急)  
じは しようお つかふ いへんなり

(康) 誥 (曰) (赤子) (を) (保)  
(かうかう) (い) (い) (赤子) (を) (保)

(如) (す) (が) (ご) (こころ) (まこと)  
すんするか ことし 心 誠に

(これ) (求) (ば)  
是 お もとめは

(中) (ず) (雖) (ど) (遠) (ほ)  
あたらずと いへとも とふ

(未) (だ) (ず)  
からす いまた あらす

(子) (養) (な) (を) (学)  
こお やしのふことお まなん

(で) (而) (う) (後) (嫁) (ぐ)  
て しかふして のち とつく

(者) (仁)  
ものか

(二) (家) (仁) (を)  
いつか 人あれば (一) (こ) (く) (仁) (を)  
いつ国 じんお

(興) (二) (家) (譲) (ば)  
おこす いつか いづり あれば

(一) (国) (譲) (興)  
いつ (こ) (く) (ゆ) (づ) (を) (興)  
いつりお おこす

(二) (人) (た) (ば)  
いつ人 くわんれいなれば

(一) (国) (乱) (を) (作) (其)  
らんお おこす その

(機) (此) (こ) (ぶ)  
き かくのことし

(これ) (一) (言) (を) (憤)  
はお いつげんことお やふり

(二) (人) (くに) (定) (謂)  
いつ人 国おきたむと ゆふ

(堯) (舜) (を)  
(げ) (てんか) (師)  
きやう・しゆん 天下 お ひき

(仁) (以)  
(ひと) (を) (以)  
ゆるに 人お もつてして

(民) (これ) (従) (が)  
たみ 是に したこふ

(紂) (を)  
(桀) (ちう) (てんか) (師)  
けつ・中 天下 お ひき

(暴) (以)  
(ぼ) (を) (以)  
ゆるに ほうお もつてして

(民) (これ) (従) (が)  
たみ 是に したかふ

(其) (令) (ところ) (其)  
その れいする所 その

(好) (ところ) (反) (民)  
このむ所に はんして たみ

(従) (が) (ず)  
したかはず

(この) (故) (諸) (を)  
此 ゆへに 君子 は 是お

(己) おのれに (有) たもつて (而) しかふ

(后) (これを) (ひと) (求) してのち 是 お 人 に もとむ

(諸) (を) (己) (無) (を) (これ) お のれ なくして

(而) (う) (后) (これ) (ひと) (非) しかふして のち 是 お 人 に そしる

(み) (蔵) (恕) 身に (を) (ところ) (じよ) 右 おさむる所 しやうあら

(ず) (而) (能) (これ) (ひと) (諭) (もの) すして よく 是 お 人 に さとす 物は

(未) (だ) (之) (ず) (有) (これ) (有) いたた 是 あらす

(故) (が) (急) (くに) (を) (治) (を) かるかゆへに 国 お おさむるは

(其) (家) (を) (齊) (在) その いへお と、のふるに あり

(詩) (い) (桃) (えうえう) しに ゆはく も、の よふく

(其) (は) (藜藜) (しん) たる その 葉 しんくたり

(之) (子) (子) (歸) (ぐ) (家人) その こ こゝに とつく その

(己) (宜) (家人) かしんに よろし

(其) (己) (宜) その かしんに よろしうして

(而) (う) (后) (以) しかふして のち もつて

(くに) (人) (を) (を) (べ) 国 たみお おしゆへし

(詩) (い) (兄) (宜) しに ゆはく けいに よろしく

(弟) (宜) (う) (兄) (宜) ていに よろしふして けいに よろしく

(弟) (宜) (う) (而) (う) (后) ていに よろしふして しかふして のち

(以) (くに) (を) (を) (べ) もつて 国たみ お おしゆへし

(云) (詩) (い) (其) (儀)  
しに ゆはく その のり

(貳) (が) (ず) (是) (四国) (を)  
た かはす この しこくお

(だ) (正) (を)  
た、しうす

(其) (父子) (兄弟) (てい)  
その ふし・けいくたること

(法) (の) (つ) (と) (る) (に) (た) (れ) (り) (し) (か) (ふ)  
(足) (而) (う)

(后) (民) (これ)  
して のち たみ 是 に

(法) (の) (つ) (と) (る)

(これ) (を) (くに) (を) (治)  
是 お 国 お おさむるは (其) その

伝一〇章

(家) (を) (齊) (在)  
いへお と、のふるに ありと

(謂) (伝) (九章)  
(い) (みぎ) (でん) (しやう)  
ゆふ 右 天の きう生は あ

(い) (へ) (を) (齊) (くに) (を) (を)  
家 お と、のへ 国 お おさむる

(を) (釈) (所謂)  
ことお せきす いわゆる

(てん) (か) (平) (を)  
天下お たいらかにするは

(其) (くに) (を) (在)  
その 国 お おさむるに ありとは

(上) (らう) (を) (老) (を)  
かみ ろふお ろうとして

(民) (かう) (を) (興) (上)  
たみ こふお おこす かみ

(長) (ちやう) (を) (長) (民) (を)  
てふお てふとして かみ

(弟) (を) (興) (か)  
ていお おこす たみ

(孤) (を) (恤) (倍)  
こふ めくんで たみ そむ

(ず) (是) (を) (以) (くんし)  
かす こ、お もつて 君子は

(潔矩) (道) (有)  
けつくの みち あり

(かみ) (悪) (ところ) (以) (しも) (を)  
上 にくむ所 もつて 下お

(使) (こと) (母) (しも) (悪)  
つかふ事 なかれ 下に にくむ

(ところ) (以) (かみ) (事) (う)  
所 もつて 上に つかふまつる

(母)  
こと なかれ

(前) (悪) (ところ) (以) (後)  
まへに にくむ所 もつて しり

(へ) (先) (ず) (母)  
えに さきんつること なかれ

(後) (へ) (悪) (ところ) (以)  
しり えに にくむ所 もつて

(前) (従) (が) (母)  
まへに したかふこと なかれ

(みぎ) (悪) (ところ) (以)  
右に にくむ所 もつて

(左) (だ) (交) (母)  
ひたりに ましゆること なかれ

(だ) (悪) (ところ) (以)  
ひたりに にくむ所 もつて

(みぎ) (交) (母)  
右に ましゆること なかれ

(これ) (之) (潔矩) (道)  
はお これ けつくの みちと

(謂) (詩) (いは) (楽)  
いふ しに ゆわく らく

(らく) (くんし) (民) (父母)  
くの 君子 たみの ふほと

(民) (好) (ところ) (これを)  
たみの このむ 所は 是 お

(好) (民) (悪) (ところ)  
このみ たみの にくむ 所は

(これを) (悪) (これを) (之)  
はお にくむ 是 お これ

(民) (父母) (謂)  
 たみの ふほと いふ  
 (云)  
 (詩) (い) (節) (彼)  
 しに ゆはく せつたる かの  
 (ぎ) (維) (巖 巖)  
 (南山) (これ) (石) (が) (がん)  
 なんさん 是 いし かんく  
 (赫赫) (る)  
 (くわく) (師尹)  
 たり かく たる しいん  
 (民) (具) (爾) (おを) (瞻)  
 たみ ともに なんしお みる  
 (を) (者)  
 (くに) (有) (もの) (以)  
 国お たもつ物は もつて  
 (可)  
 (慎) (ず) (ば) (べ) (ず)  
 つ、しまつんは あるへからす  
 (辟) (ば) (則)  
 へきすれは すなはち  
 (てんか) (戮) (為)  
 天下の りくと なる  
 (云)  
 (詩) (い) (殷) (未) (だ)  
 しに ゆはく いんの いたた

(師) (もろを) (喪) (ぎ) (克)  
 もろくお うしなはさる よく  
 (上帝) (配)  
 (じやう) はいす  
 しよふていに  
 (儀しく) (殷) (監) (が) (べ)  
 よろ敷 いんに かんかみるへし  
 (可)  
 (峻 命) (易) (ず)  
 しゆんめい やすらかす  
 (道)  
 (いふ) (こころ) (衆) (を) (得) (ば)  
 ゆう 心は しよう うれは  
 (則) (くにを) (得) (衆) (を) (失)  
 すなはち 国お え しよう  
 (ば) (則) (くにを) (失) (な)  
 しなへは すなはち 国お うしのふ  
 (是) (る)  
 (この) (故) (くんし) (まづ) (徳) (を)  
 此 ゆへに 君子は 先 とくお  
 (慎) (徳) (有) (ば) (ここに) (ひと)  
 つ、しむ とく あれは 是人  
 (有) (ひと) (ば) (ここに) (ど) (有)  
 あり人 あれは 是と あり

(土) (有) (ば) (ここに) (財) (有)  
 とあれば 是 さい あり  
 (ぎ) (財) (有) (ば) (ここに) (よう) (有)  
 さい あれば 是 用 あり  
 (也) (財) (也) (財) (也) (未)  
 とくは 本なり さいは すへ  
 (徳) (もと) (ぎ) (未)  
 (也) (本) (を) (そと)  
 なり もとお 外に し  
 (未) (を) (内) (ば) (民) (を)  
 すへ おお うちに すれば たみお  
 (争) (奪) (ばふ)  
 あらそはしめ むほう  
 (を) (施) (ど)  
 ことお ほとこす  
 (故) (財) (聚) (ば) (則)  
 (この) (を) (ぎ) (聚) (ば) (則)  
 此 ゆへに さい あつまれば す  
 (財) (散) (ず) (ぎ)  
 なはち たみ さんす さい  
 (散) (ぎ) (ず) (ば) (則) (民)  
 三すれば すなはち たみ

(聚) あつまる  
 (故) (言) (づ)  
 (この) (を) (事) (悖) (出)  
 此 ゆへに 事 さかつて いつる  
 (者) (亦) (悖) (入)  
 (もの) (また) (悖) (入)  
 物は 又 さかつて いる  
 (貨) (悖) (入) (もの)  
 たから さかつて 入 物は  
 (亦) (また) (悖) (入) (もの)  
 又 さかつて 入  
 (康誥) (曰) (惟) (命)  
 (かう) (かう) (い) (これ) (命)  
 こうくくに ゆはく 是 めい  
 (常) (于) (ず)  
 つねに おいてせづ  
 (道) (こころ) (善) (ば) (則)  
 (いふ) (心) (ぜ) (せん) (な) (は) (す) (な) (は) (ち)  
 ゆう 心は せんなれば すなはち  
 (之) (不) (善)  
 (これを) (得) (ぜ) (ば) (則)  
 是 お え ふせんなれば すなはち  
 (之) (これ) (を) (失) (な) (楚) (書)  
 是 お うしのふ そしよに



(曰) (楚) (以) (宝) (為) (無)  
 (い) (国) (以) (宝) (為) (無)  
 ゆはく そこは もつて たからと することなし  
 (惟) (善) (以) (宝) (為)  
 (だ) (ぜ) (以) (宝) (為)  
 た、せん もつて たからとす  
 (曰) (亡)  
 (舅犯) (が) (い) (ば) (じん)  
 きうはんか ゆはく ほう人は  
 (以) (宝) (為) (無)  
 もつて たからとすること なし  
 (仁) (親) (以) (宝)  
 じんしん もつて たからとす  
 (曰)  
 (秦) (誓) (い) (若) (いつ)  
 しんせいに ゆはく もし一  
 (臣) (たん)  
 (个) しん (有) (断) (断)  
 かの 人 あらん たんくとして  
 (他) (ぎ) (わざ) (無)  
 たのき なし  
 (休) (休) (焉)  
 (その) (ころ) (きう) (え)  
 其 心 きうく めんとして  
 (容) (如)  
 (其) (づ) (有) (が) (ご)  
 それ いつること あるか ことし

(ひと) (ぎ) (有) (己) (これ) (有) (が)  
 (技) 人のき ある おのれ 是 あるか  
 (如) (彦) (聖)  
 (ご) (ひと) (げ) (其)  
 ことく 人 けんせいなる その  
 (だ)  
 (こころ) (これを) (好) (帝)  
 心 是 お よみし た、  
 (くち) (が) (如)  
 (其) (いだ) (ご)  
 その口より 出すか こときの (を)  
 (を)  
 (ず) (まこと) (能) (これ)  
 みならず 誠に よく 是 お  
 (我)  
 (容) (以) (能) (が) (子)  
 いる もつて よく わかし  
 (孫) (を) (保)  
 孫お やすんせん  
 (ひ) (は)  
 (黎) (民) (尚) (が)  
 せいみん こいねかわくは (義)  
 (亦) (利) (有) (哉) (ひと) (ぎ)  
 またり あらんかな 人のき  
 (有) (娼) (疾) (以)  
 ある ほうしつとして もつて

(を) (これ) (悪) (ひと) (彦聖)  
はお にくみ 人の けんせい

(これ) (がう) (通)  
なる 是に たかふて つふぜ

(ぎ) (俚) (まこと) (容) (づ)  
さらしむ 誠に いうること

(能) (はず) (以) (我) (が)  
あたわす もつて わか

(子孫を) (保) (ず) (能)  
しそんお やすんすること あた

(はず) (藜 民) (亦) (日)  
わす れいみん また こゝに

(危) (ふ) (哉) (唯) (仁人) (じん)  
あやういかな た、 じんぐ

(これを) (は) (放 流) (諸) (これ) (を)  
はお ほうりふし 是 お

(四夷) (迸) (ぞ) (興)  
しいに しりそけ ともに

(国) (ちう) (を) (同) (じ) (ず) (せ)  
中ごくお おなしう せず

(これを) (唯) (仁人) (能)  
はお た、 人ぐ よく

(ひとを) (愛) (能) (ひと) (悪)  
人お あいし よく 人お にくむこと

(を) (為) (い) (賢) (を) (見)  
おなすと ゆふ けんお みて

(拳) (能) (はず) (あぐる)  
あぐること あたわす 上 こと

(先) (ず) (能) (はず) (不善)  
さきんつること あたわす

(命) (ぜ) (を) (見)  
めいなり ふせんお みて

(退) (ぞ) (能) (はず) (遠)  
しりそくこと あたわす

(退) (ぞ) (遠)  
しりそいて とふさくること

(能) (はず) (過) (なり)  
あたわす あやまち成

(ひと) (悪) (ところを) (好)  
人の にくむ 所お よみし

(好)

(ひと) (と) (ところを) (悪)

人の よみする所 お にくむ

(これ) (を) (ひと) (性) (拂)

是 お 人の せいに もとつて

(蓄)

(ぎ) (は) (ひ) (必) (ず) (夫) (身)

わさわい かならず かの みに

(速) (ぶ)

およふ と ゆふ

(故)

(この) (急) (くんし) (大) (道) (有)

此 ゆへに 君子は たいとふ あり

(う)

(必) (ず) (忠) (信) (以)

かならず ちふしん もつて

(之)

(これを) (得) (けう) (驕) (泰) (以)

是 お え きやうたい もつて

(之) (を)

(これ) (失) (な) (財)

是 お うしのふ さいを

(だう)

(成) (大) (道) (有)

なすに たいとふ あり

(を)

(これ) (生) (もの) (衆) (ほ)

是 お なす物は おく

(を)

(これ) (食) (もの) (寡)

是 お はく物は すくなく

(者)

(を) (為) (もの) (疾) (これを)

お なす 物は とく 是 お

(づ)

(用) (もの) (舒)

もちゆる 物は しつかな

(財)

(ば) (則) (ぎ) (恒)

れは すなはち さい つねに

(財)

(足) (仁) (者) (ぎ)

たる じんしやは さい

(を)

(を) (以) (み) (発)

おもつて 身お おこし

(不仁者)

(不仁者) (を) (を)

(不仁者) (を) (を) (以)

ふしんしやは 身お もつて

(財) (ぎ) (を) (発) (未) (だ)

さいお おこす います

(有) (ず) (かみ) (仁) (を) (好) (で)

あらず 上 じんお このんて

(義)

(しも) (ぎ) (を) (好) (ぎ) (もの)

下 きお このまさる物は

(之)

(これ)

是

(未)(だ) (有)(ず)(ぎを) (好)(で)  
いまた あらす きお このんて (義)

(其) (事を) (得)(ぎ) (者)  
その ことお えさる ものたり

(未)(だ) (有)(ず)(府庫) (ぎ)  
いまた あらす こゝの さい (財)

(其) (ぎ) (非)(ぎ)(もの)  
その さいに あらさる物は

(孟)(献)(子) (曰)  
(まう) (が) (い)(は)(馬)  
もふけんしか ゆわくば

(乗)  
(じよ)(を) (畜)(ば) (鶏)(豚)(を)  
しやうお かへは けいとんお

(察) (伐)(水)  
みす ばつきやうの

(家) (牛羊)(を) (はず)  
いへには ぎうやうお かわす (畜)

(百)(乘)(じよ) (家)  
ひやくしやうの いへにして

(聚)(斂) (臣)(を) (畜)  
しうれんの しんお やし

(ず)  
なはず

(その)(聚)(斂) (臣)  
其 しうれんの しん (盗)

(有) (寧) (たう)  
あらんよりは むしろ とふ (此)(を)

(臣) (有) (これ) (くに)  
しん あれ と 是 お 国は (を)

(利) (以) (利)(為)(ず)  
りお もつて りとせず

(義)  
(ぎを)(以) (利)(為)  
きお もつて りとすと (長)

(謂)  
(い) (国家) (ちやう)  
ゆふ こつかに てふ として (財)(用) (者)

(ぎ)(よ)(を) (務) (もの)  
さいやうお つとむる 物は

(必)(ず) (せう)(じん) (自) (せう)(じん)  
かならず 小人に よる 小人 (為)

(を) (国家)(を) (を)  
おして こつかお おさめしむ

(ば) (蓄) (害) (竝) (び) (至)  
 ねは さいかい ならひ いたる  
 (善者) (雖)  
 (ぜ) (有) (い) (ど)  
 せんしや ありと ゆへとも  
 (之)  
 (亦) (これを) (如何)  
 また 是 おお いかんとも する  
 (無) (これ) (くに) (利)  
 こと なし 是 お 国 は り  
 (を) (以) (利) (為) (ず) (義) (を)  
 お もつて りと せず き お  
 (謂)  
 (以) (利) (為) (い)  
 もつて りとすと ゆふ  
 (伝) (章) (を)  
 (みぎ) (でん) (じつ) (くに)  
 右 天の 十しやう 国お  
 (治) (を) (を) (ひ)  
 (を) (てんか) (平)  
 おきめ 天下お たいらかに  
 (を) (釈) (凡)  
 することお せきす およそ  
 (伝) (章)  
 (でん) (じつ) (前) (し)  
 天の 十しやう まへの 四

(べ) (綱) (領)  
 (統) (かう)  
 しやう は すへて こふれいの  
 生 は  
 (指趣) (を) (論) (ず) (のち)  
 しゅうお ろんす 後の  
 (六) (章) (細)  
 りくしやうは こまかに  
 (条目)  
 (でう) (功夫を)  
 しやうもくの くふうお  
 (論) (章)  
 (ず) (その) (だい) (ご) (しやう)  
 ろんす 其 大五生 は  
 (善)  
 (乃) (せ) (を) (明)  
 すなはち せんお あきら  
 (要) (第六)  
 (えう) (だい)  
 かにするの やう 大 りく  
 章 (乃) (身)  
 しやうは すなはち みに  
 (まこと) (本) (初) (学)  
 誠 あるの もと しょかくに  
 (在) (尤) (當)  
 あつて もつとも まさに

(務)(べ) (急)(ふ)  
つとむへきの き うたり  
(もの)  
(読者) (其) (近) (を)  
よむ物 その ちかきお  
(以) (これを) (忽)  
もつて 是 お ゆるかせに  
(可) (だい)(学)(章句)  
(べ) (ず) (が) (しやう)  
すへからす 大かく 小く  
(を) (終)  
おはり

序

(庸) (ちう)(う) (朱熹) (章) (句)  
中よふ しゆき しようく

(子程子) (い) (偏) (ぎ)  
していしの ゆはく へんならさる

(を) (謂) (は)

(これ)(ちう) (い) (易) (ぎ)  
はお 中と ゆふ かわらさる

(之)(を)(庸) (謂) (中) (てん)  
(これ) (う) (い) (う) (てん)

はお よふと ゆふ ちうは 天  
(だう) (う) (下)

か) (正道) (庸) (てん) (下)  
下の せいとふ よふか 天かの

(定理) (この) (篇) (乃)  
ていり 此 へんは すなはち

(う) (伝授) (心法)  
孔門) (で)(じ) (し)(は)

こふもん てんしの すんほう

(子思) (其) (ひき)  
なり きし その 久

(差) (がは) (こと)  
しうして たかわん 事

(を) (恐) (故) (が) (急) (これ)  
お おそる かるかゆへに 是お

(之)(を)

(しよ) (筆) (以)  
書に ひつして もつて

(孟子) (授) (まうし) (づ) (其) (しよ) (始) (じ)  
申 に さつく その 書 はし

(一理) (を) (いひ) (ち)  
めは いちりは ゆい 中うは

(散) (さんじ) (ばんじ) (為)  
三して 萬事となり

(復) (合) (また) (が) (二理)  
又 かつして いちりと

(為) (これ) (放) (ば)  
なる 是お はなては

(則) (六) (合) (弥) (が)  
すなはち りくこふに わたる

(之)(を) (これ) (卷) (ば) (則) (退) (ぞ)  
是お まけは すなはち しりそいて

(密) (蔵) (其) (味) (ち)  
みつに かくる その あし

(はひ) (窮) (無) (皆)  
わい きわまりなし みな

(は)

(は)

(は)

(は)

(は)

第一章

(実学) (者)  
 (が) (善) (読) (もの)  
 じつかくなり よくよむ物  
 (玩索)  
 (ぐわ) (得)  
 がんさくして うる

(有)  
 (こと) (ば) (則) (身を)  
 事 あらは すなはち みお  
 (終) (之)  
 (をふ) (で) (これを) (庸) (る)  
 おつるまで 是 お もちいて  
 (者)

(尽) (こと) (能) (はぎ)  
 つくす 事 あたわさる 物  
 (もの)

(有) (てん) (命) (これを)  
 あらん 天のめい 是 お

(性) (性) (率) (が)  
 (い) (謂)  
 せいと ゆふ せいし したかふ  
 (を) (道) (い) (道) (を)

(これ) (道) (い) (道) (を)  
 星お みちと ゆふ みちお

(脩) (を) (教) (謂)  
 (を) (これ) (を) (を) (い)  
 おさむる 是 お おしへと ゆふ

(道) (須) (叟) (離)  
 みちは しはらくも はなる

(可) (可) (離) (べ) (道)  
 (べ) (離) (へ) (は) (み) (ち) (に)  
 へからす はなるへきは みちに

(非) (この) (ゆ) (急) (くん) (し)  
 ならず 此 いへに 君子は

(其) (睹) (ところ) (を) (戒)  
 その みさる 所お いましめ

(慎) (其) (聞) (ぎ) (ところ) (を)  
 つしむ その つかさる 所お

(恐) (懼) (隠)  
 おじおそる かくれたるより

(見) (は) (莫) (す) (こ) (微)  
 あらわる、は なし 少しき

(頭) (莫)  
 より あきらかなるは なし

(故) (が) (急) (くん) (し) (其)  
 かるかゆへに 君子は その

(獨) (ひとり) (を) (慎) (喜怒哀楽)  
 一り お つしむ きどあいらくの



第二章

(未) (だ) (発) (ぎ) (これを)  
 いまた おこらざるの 是 お  
 (謂) (ちう) (い) (発) (皆)  
 中と ゆふ おこつて みな  
 (節) (中) (これを) (和)  
 せつに あたる 是 お くわと  
 (謂) (い) (ちう) (てんか) (天)  
 ゆふ 中は 天下の たい  
 (本) (和) (てんか)  
 ほんなり くわは 天下の  
 (だう) (ちう) (和を)  
 (達道) なり 中くわお  
 たつとふ  
 (致) (てんち) (位) (る)  
 いたして 天地 くらいし  
 (ばんぶつ) (育) (章)  
 萬物 やしなはる  
 (みぎ) (第) (いつしやう) (子思)  
 右 てい 一生 しし  
 (伝) (つ) (したふる)

(を) (べ) (以)  
 (ところ) (意) (述) (へて) (もつて)  
 所の にお のへて (首) (げ)  
 (言を) (立) (はじ) (みち) (本原)  
 ことお たつ 初めは 道の ほんけん  
 (出) (易)  
 (てん) (で) (か) (べ) (ず) (その)  
 天に いてつ こふへからす 其  
 (じ) (実体) (己) (備)  
 していは おのれに そなは  
 (可) (離) (べ) (ず) (要)  
 つて はなるへからす おをす  
 (つぎ) (やう) (省察) (えう)  
 次には そんよふ せいさつの よふ  
 (を) (言) (つひ) (聖神) (う) (わ)  
 おいふ 終には せいしん こふくは  
 (言) (だ) (学者)  
 (極) (を) (い) (蓋) (が)  
 の きよくお ゆふ けたし かくしや  
 (諸)  
 (此) (於) (反) (これ) (を)  
 こゝに おいて かへつて 是 お  
 (之) (自得)  
 (み) (求) (これを) (じ)  
 身に もとめて 是 お しとく

(引) ひいて  
 (以) (夫) (外) もつて かの くわい  
 誘 (い) (私) (を) (去) ゆうの わたくしお さつて  
 (本然) (善) (善) (其) (ぜ) (を) (充) その ほんせんの せんお みてん  
 (楊氏) (ことを) (欲) (やう) 事 お ほつす よふしか  
 (所謂) (い) (篇) (体) (要) ゆはゆる 一へんの ていよふとは  
 (これ) (其) (下) (じふ) (やう) 是なり その しも 十しよふは  
 (言) (蓋) (子思) (夫子) (ことを) けたし しし ふうしの 事 お  
 (以) (この) (章) (義) (終) もつて (やう) (ぎを) (を) 此 しよふの きお おふ  
 (仲尼) (曰) (くんし) ちうし のたまはく 君子は

(う) (ちう) (庸) (を) (せうじん) (中) 中よふ おす 小人は ちう  
 (庸) (う) (反) (くんし) (ちう) 庸 (う) (反) (くんし) (ちう) よふに はんす 君子の 中よふ  
 (とき) (ちう) は 君子にして 時に 中す  
 (中庸) (う) (反) (せうじん) の ちうよふに はんするは  
 (忌憚) (せうじん) (ば) 小人にして いみは かかる  
 (章) (こと) (無) (みぎ) (第) (じしやう) 事 なし 右てい 二生  
 (庸) (子) (曰) (の) (たまはく) (ちう) (う) (其) (至) (し) のたまはく (ちう) (う) 中よふは それ いた  
 (民) (能) (こと) れるかな たみ よくする 事  
 (鮮) (こと) (ひき) (みぎ) (第) すくなき 事 久し 右 てい

第三章

(章) (子曰) (行)  
(さんしやう) (しのたまはく) (みち) (行)  
三 生 ① 道の おこなはれ

第四章

(ぎ) (我) (これを) (知) (知者)  
さる われ 是 お しれり ちしやは  
(愚者)  
(これ) (過ぐ) (ぐ) (及)  
是 に すく くしやは およ

(はず) (みち) (明)  
はす 道の あきらかなら  
(を)

(ぎ) (我) (これ) (知)  
さる われ 是 お しれり  
(じ) (を)

(賢者) (これ) (過) (武章者)  
けんしやは 是に すく 小し  
(飲) (食)

(及) (はず) (ひと) (い)  
やは およはす 人 にんしよく  
(ぢ)

(ぎ) (こと) (莫) (能) (味)  
せざる事 なく よく あし

(はひを) (知) (こと) (鮮) (みぎ) (第)  
わい おしる 事 すくなし 右 てい

第五章

(章) (子曰) (行)  
(ししやう) (しのたまはく) (みち) (其) (行)  
四 生 ① 道の それ おこなはれ  
(章)  
(ぎ) (みぎ) (第) (ごしやう)  
さらんか 右 てい 五 生

第六章

(子曰) (舜) (其) (大知) (舜)  
(しのたまはく) (舜) (其) (大知) (舜)  
① (を) すんは それ たいちか しゆん  
(爾言)

(問) (こと) (好) (で) (じげ) (を)  
とふ 事お このんて しけんお

(察) (悪) (を) (隠)  
さつす あくお かくして  
(善) (を) (ぐ) (やう)

(ぜ) (を) (揚) (其) (両)  
せん お あく その りよふ  
(を)

端 (を) (執) (其) (ちう) (民)  
たんお とつて その 中お たみ

(用) (其) (斯) (以)  
にもちゆ それ これ もつて

(舜) (為) (みぎ) (第) (りくしやう) (章)  
 しゆんとするか 右 てい六 生  
 (子曰) (し) (の) (たまはく) (ひと) (皆) (予) (知)  
 ① 人 みな われ ちありと

第七章

(曰) (諸) (驅) (これ) (を) (罟) (獲)  
 (い) (驅) (これ) (を) (罟) (獲)  
 ゆふ かつて 是 お こ・くわ〔く〕

(陷阱) (中) (納) (ど)  
 かんせい の うちに いるれとも  
 (を) (辟) (こと) (知) (こと)  
 是 お さくる 事 しる 事

(莫) (ひと) (皆) (予) (知)  
 なし 人 みな われ ちあり  
 (曰) (庸) (え)  
 (い) (ちう) (う) (を) (擇) (で) (期)  
 と ゆふ 中よふお へらんと き

(げ) (月) (守) (こと) (能)  
 けつ も まもる 事 あた

(はず) (みぎ) (第) (しちしやう) (章) (子曰) (の) (たまはく)  
 わす 右 てい七 生 ①

第八章

(回) (ひと) (為) (ちう)  
 くわいの 人となりや 中  
 (庸) (擇) (善)  
 (う) (を) (え) (で) (いちぜ) (を) (得) (ば)  
 よふお へらんと 一せんお うれば

(則) (拳拳) (けん) (服鷹) (よう)  
 すなはち けんく ふくなふして  
 (を) (失) (ず) (みぎ) (第) (りくしやう) (章)  
 是 お うしなはず 右 てい六 生

第九章

(子曰) (の) (たまはく) (てんか) (国家) (え) (可)  
 ① (し) (の) (たまはく) (てんか) (国家) (え) (可)  
 天下 こつかも へしうすへし  
 (可) (じん)

(爵禄) (辞) (べ) (白刃)  
 さくろくも じすへし はく人も  
 (庸) (踏) (べ) (ちう) (う) (能) (可)  
 ふむへし 中よふは よくすへ

第一〇章

(ず) (みぎ) (第) (きうしやう) (章) (子路) (強)  
 からす 右 右てい九 生 しろ 京 (きやん)  
 (子) 曰 (ばう) (強)  
 (を) (間) (し) のたまはく (南方) (きやう)  
 おとふ (し) (強) なんほふの 京 (そも)  
 (北方) (きやう) (抑々) (而)  
 ほつほうの 京か そもく なん  
 (おが) (きやう) (くわ) (じ) (以)  
 しか 京か かん しうにして もつて  
 (教) (を) (ぶだう) (報) (ひぎ)  
 おしへ ふたふに むくいさるは  
 (ば) (強)  
 (南方) (きやう) (くんし) (これ)  
 なんほうの 京なり 君子 是に  
 (居) (金 革)  
 (を) (き) (を) (枉)  
 おり ひんかくお しきぬに  
 (死) (厭) (ぎ)  
 して して いとはさるは  
 (ば) (う)  
 (北方) (強) (而)  
 ほつほうの 京なり しかふ  
 (強者) (居)  
 (きやう) (これ) (を)  
 して 京しや 是に おり

(故) (が) (急) (くんし) (和)  
 かるか ゆへに 君子は くわして  
 (強) (矯)  
 (流) (ず) (きやう) (哉) (きやう)  
 りうせす 京なるかな 京たり  
 (中立)  
 (ち) (倚) (ず)  
 しうりついで かたよらす  
 (強) (哉) (矯)  
 (きやう) (矯)  
 京なるかな 京たり  
 (くに) (みち) (有) (ば) (塞) (を) (変) (ぜず)  
 国 道 あれは とくお へんせつ  
 (強) (矯) (矯)  
 (きやう) (哉) (きやう) (くに) (みち)  
 京なるかな 京たり 国 道  
 (無) (死) (至) (で)  
 なきには しに いたるまで  
 (変) (ぜ) (きやう) (哉) (きやう)  
 へんせす 京なるかな 京たり  
 (みぎ) (第) (じつしやう) (し) のたまはく (隠) (を)  
 右 てい 十 生 (し) かくれたるお

第一章

(素) (怪) (を) (行) (な)  
もとめ あやしきお おこのふ

(う) (ぶ)

(後) (世) (述) (こと) (有)  
こふせい のふる事 あらん

(を)

(吾) (これ) (為) (ず) (くんし)  
われは 是 お せず 君子は

(道) (遵) (がう) (行) (な)  
みちに したかふて おこのふ

(半塗) (廢) (吾) (已)  
はんとにして はいす われ やむ

(能) (はず)  
こと あたわす

(庸) (遜) (が)  
(くんし) (ちう) (う) (依) (世を)

君子 中よふに より よお のか

(わ) (だ)

(知) (ず) (悔) (唯) (聚)  
れて しられすして くはいす た、せい

(者) (能) (みぎ) (第)

(じ) (これを) (能) (みぎ) (第)  
しや 是お よくす 右 てい

(章)

(じふいつしやう) (くんし) (みち) (費)  
十 一 生 君子の 道 ひにして

第二二章

(隠) (夫婦) (ふう) (ぐ) (愚)  
いんなり ふうくの の くも

(以) (与) (づ) (可)

もつて あつかり しるへし

(其) (至) (及) (で)  
その いたれるに およんては

(聖人) (雖) (ど) (また) (亦)

せいしんと いへとも 又

(知) (ぎ) (ところ) (夫)  
しらざる 所 あり ふう

(せう)

婦 (不 肖) (以)  
ふの ふしようふも もつて

(可)

(能) (行) (な) (べ)  
よく おこのふへし

(其) (至) (及)  
その いたれるに およん

(じ)

(で) (聖人) (雖) (ど)  
ては せいしんと いへとも

(亦)

(また)(能) (ぎ)(ところ)(有) (てんち)  
又 よく せざる所 あり 天地

(大)

(ほ)(ひと)(猶)  
の お、いなるも 人 なを

(憾)(ところ)(有)(故)(が)  
うらむる所 あり かるか

(急)

(くんし)(だいを)(語)(ば)  
ゆへに 君子 大お かたれは

(載)

(てんか)(能)(のう)(こと)(莫)  
天 下 よく のする事 なし

(せうを)(語)(ば)(てんか)(能)  
小 お かたれは 天下 よく

(破)

(莫)(詩)(い)  
やふること なし しに ゆはく

(び)

(飛)(で)(てん)(戻)  
とひ とんて 天に いたり

(魚)

(淵)(を)(ど)(言)(ころ)  
うお ふちに おとる いふ心は

(其)

(せう)(察)(なり)  
それ 小か あきららか成

(くんし)(みち)(端)(を)(夫婦)  
君子の 道 はしお ふうふ

(造)

(其)(至)(及)  
になす その いたれるに およ

(で)

(てんち)(察)  
んては 天地に あきらか

(なり)

(みぎ)(第)(じふじしやう)(章)  
成 右 てい十二生 しの

第一三章

(こと)(蓋)(だ)

事 けたし もつて すし

(を)

(みち)(離)(べ)(ず)  
よふの 道は はなるへからす

(を)

(かさね)(あかす)(そのも)  
のいお かしやう (孔子) (ことを)

(八)

生は こふしの 事お  
ましへひいて もつて

(を) (子)曰 (これ)のたまはく(みち) 道は  
はお ① あかす (ほ)

(ひと) (遠) (ず) (ひと) (みち)  
人に とふからす 人の道 (ほ)

(を) (為) (ひと) (遠)  
おなして 人に とふきは (可)

(以) (みち) (為) (べ)  
もつて 道と なすへ (云)

(ず) (詩) (い)  
からす しに ゆはく (を) (伐)

(柯) (り) (伐) (其) (則)  
かおきし かお きる そののり (ほ)

(遠) (ず) (柯) (を) (執) (以)  
とふからす かお とつて もつて (を) (睨)

(柯) (伐) (げ) (これ)を  
かお きる けいして 是 お (視)

(視) (なほ) (以)  
みる 猶 もつて (ほ)

(遠) (為) (故) (が) (急)  
とふしとす かるかゆへに

(くんし) (ひと)を (以) (ひと)  
君子は 人お もつて 人 (治)

(を) (を) (改)  
お おさむ あらためて (忠) (恕) (を)

(止) (ち) (じ) (よ) (みち) (遠)  
やむ 中しよふ 道お さる (遠)

(こと) (ほ) (ず) (これ) (已)  
事 とふからす 是 おおの (ど) (願)

(施) (施) (願)  
れに ほとこして ねか (勿)

(ず) (ば) (亦) (ひと) (施) (ど)  
つんは また 人に ほとこす (こと) (なし)

(こと) (なし) (くんし) (みち) (よ)  
事 あり 君子の 道 四つ (丘)

(丘) (未) (だ) (二) (を) (能) (ず)  
きう いまた いっお よくせず (子)

(子) (求) (ところ) (以)  
こに もとむる 所 もつて (父)

(父) (事) (う) (未) (だ)  
ち、に つかふまつること いまた



(能) (ず) (臣) (求)  
よくせず しんに もとむる

(ところ) (以) (きみ) (事) (う)  
所 もつて 君に つかふまつる

(未) (だ) (能) (はず) (弟) (求)  
こと いまた あたわす ていに もと

(ところ) (以) (兄) (事) (う)  
むる 所 もつて けいに つかふ

(ところ) (未) (だ) (能) (ず) (朋)  
まつる 所 いまた あたはす ほう

(い) (求) (ところ) (先)  
ゆうに もとむる 所に まつ

(これ) (施) (未) (だ) (能) (ず)  
はお ほとこすこと いまた あたはす

(庸) (徳) (これ) (行) (ひ)  
つねの とく 是 おこない

(庸) (言) (之) (謹) (んで)  
つねの こと これ つゝしむて

(ところ) (有) (ば) (敢) (勉)  
さる所 あれば あへて つと

(ず) (ば) (ず) (余) (有) (ば)  
めすんは あらす あまり あれば

(敢) (尽) (ず) (言) (行) (ひ)  
あへて つくさす こと おこない

(を) (願) (行) (ひ) (言) (願)  
お かへりみ おこない こと かへり

(くんし) (胡) (ぞ) (さう)  
みる 君子 なんぞ そふく

(爾) (ぎ) (みぎ) (第) (じふさんしやう)  
し ならさらん 右 てい 十三 生

第十四章

(くんし) (其) (位) (る) (素)  
君子 その くらいに 素して

(行) (な) (其) (外) (を) (願) (ず)  
おこのふ その ほかお ねかはす

(富貴) (素) (富貴) (を)  
ふうきに 素しては ふうきお

(行) (ひ) (貧 賤) (素) (貧)  
おこない ひんせんに 素しては ひ

賤(を) (行) (ひ) (夷狄) (素)  
んせんお おこない いてきに そし

ては (夷狄) (行) (ひ) (患)  
いてきに おこない くわん

難(素) (患) 難  
なんに そしては くわんなんに

(行) (な) (くんし) (入)  
おこのふ 君子 いるとして

(自得) (ぎ) (無)  
じとくせざる こと なし

(じやうる) (在) (下) (を) (陵)  
そふいに あつて しもお しの

(がず) (下位) (在) (かみを) (授) (ず)  
かす かいに あつて 上お ひかす

(己) (を) (正) (ひと)  
おのれお た、しうして 人に

(求) (ぎ) (ば) (則) (怨)  
もとめされは すなはち うら

(無) (かみ) (てん) (怨) (ず)  
み なし 上 天お うらみす

(ひと) (が)  
(しも) (を) (尤) (ず) (故) (が)  
下人 お とかめす かるか

(易) (居)  
(易) (くんし) (易) (る)  
ゆへに 君子は やすきに いて

(以) (命) (を) (俟) (せうじん)  
もつて めいお まつ 小人は

(險) (を) (行) (な) (以)  
さかしきお おこのふ もつて

(幸) (はひを) (傲) (射)  
さいわいお もとむ (子) 曰 (のたまはく) (射) しゃは

(くんし) (似) (有) (これを)  
君子に にたること あり 是 お

(正鵠) (失) (なう) (反)  
せいこくに うしのふて かへつて

(これ) (其身) (求) (みぎ) (第) (じふししやう) (章)  
是 お そのみに もとむ 右 てい 十四 生

(くんし) (ほ)  
君子の

(道) (辟) (ば) (遠) (行)  
みち たとへは とふきに ゆく

第一五章

(必)(ず)(爾)(自)(が) かならず ちかきより するか  
 (如) (辟)(ば)(高) ことし たとへは たかきに  
 (登) (必)(ず)(卑)(自) (ほ) かならず ひくきより  
 (如) (が)(ご) のほる  
 (日) (妻)(子)(好) するか ことし  
 (詩)(い) (好) しに ゆはく さいし よく  
 (合) (瑟)(琴)(を)(鼓)(が) (如) あへり しつきんお ひくか  
 (ご) (兄弟) (既) (で) ことし けいてい すてに  
 (和)(樂) (且)(耽) (翁)(くわ) あへり からくして かつ たの  
 (爾)(ち) (室)(家) (宜) しむ なんしの しつかに よろし

第一六章

(爾)(ぢ) (妻)(帑)(を) (ど) (樂) なんしの さいとお たのしむ  
 (子)(日) (父母) (其)(ず)(順) ① (し) のたまはく (ほ) ① ふほは それ すんなる  
 (弟)(章) (子)(日) (鬼神) (矣) (みぎ)(じふごしやう) (し) のたまはく (じ) かな 右 てい十五生 ① きしん  
 (徳)(為) (其)(盛) の とくたる それ さかん (えず)  
 (之) (矣) (これ)(を) (視)(見) なるか 是お みて みへす (を) (聴) (聞)(えず) (これ) 是お きいて きこへす (可)  
 (もの)(體) (遺)(べ) (ず) (もの) ていして のこすへからす (てんか) (ひと)(を) (齊) 天下の 人おして さい  
 (明) (盛)(服) (以) めい せいふくして もつて

第一七章

(祭祀) (承) (う) さいに つかふまつらしむ  
 (やうやう) (其) (上) よふよふこととして その かに  
 (如) (其) (左右) (在) (が) (ご) (其) (左右) (い) (う)  
 いますか ことく その さゆふに  
 (在) (が) (ご) (詩) (い) (神) (格) (可) (可) (射) (べ) (夫)  
 いますか ことし しに ゆはく  
 (じ) (い) (度) (べ) (ず) しんの きたる はかるへからす  
 (可) (可) (射) (べ) (夫) (い) (い) ゆはんや いとふへけんや それ  
 (微) (顕) (なる) (まこと) (検) びの あきらか成 誠の おく  
 (可) (如) (可) (此) (ご) (第) (章) (子) (曰) (夫) (みぎ) (じ) (ふり) (く) (し) (や) (う) (し) (の) (たま) (は) (く) (舜)  
 へからさること かくのとき ① 右 てい 十六 生 しゆん

(孝) (徳) (章) (其) (たい) (かう) (徳) (聖) それ 大こふか とく せい  
 (尊) (てん) (じ) (為) (尊) (たつ) (とき) (こと) (天子) しんたり たつときこと  
 (為) (富) (じ) (海) (うち) (を) (有) (宗) (廟) (を) たり とみ 四かいの 内 お  
 (有) (う) (べ) (これ) たもつ そふひやう 是 お  
 (郷) (食) (子) (孫) (これ) (を) (保) (ず) うけ しそん 是 お やすんす  
 (故) (が) (ゑ) (だい) (徳) (必) (ず) かるかゆへに 大とくは かならず  
 (其) (位) (ゑ) (を) (え) (必) (ず) (其) (其) (くら) (い) (お) (へ) かならず その  
 (得) (禄) (を) (え) (必) (ず) (其) (な) (を) (え) (得) ろくおへ かならず その 名おへ  
 (必) (ず) (壽) (を) (得) (故) (が) (ゑ) (かな) (らず) (生) かならず その じお う かるかゆへに  
 (てん) (もの) (を) (や) (う) (ず) (必) (ず) (天) (の) (物) (お) (し) (よ) (ふ) (す) (る) (必) (ず) かならず

(材)

(其) (ぎ) (因) (篤) その さいに よつて あつうす

(者)

(故) (が) (ゑ) (裁) (もの) (これを) かるかゆへに うゆる物は 是 お

(者)

(培) (傾) (もの) (これを) (覆) つちかへ かたむく 物は 是 お くつ

(曰)

(が) (詩) (い) (かへす) (しに) (ゆはく)

(嘉樂) (くんし) (憲憲) (けん) からくの 君子 けんけんたる

(令徳) (民) (宜) (れいとく) (たみに) (よろしく)

(ひと) (宜) (禄を) (てん) 人に よろしく ろくお 天に

(受) (保) (じ) (祐) (うく) (やすんし) (たすけて)

(を) (命) (ず) (之) (これ) (命) (てん) (これ)

是 お めいす 天より 是

(を) (申) (故) (が) (ゑ) (だい徳) お かさぬ かるかゆへに 大とく

第一八章

(命)

(必) (ず) (め) (を) (受) (みぎ) (第) は かならず 名いお うく 右 てい

(章)

(じふしちしやう) (子) (曰) (し) (のたまはく) (憂) (ひ) (無) 十七生 (し) うれいなき

(者)

(もの) (其) (唯) (だ) (文) (王) 物は それ た、 ふんのふか

(王季)

(わう) (を) (以) (父) (為) お、きお もつて ち、とし

(武王)

(ぶわうを) (以) (子) (為) ふおふお もつて 子とす

(父) (これを) (作) (こ) (これを) (述ぶ) ち、 是 お つくり 子 是 お のふ

(武王) (大王) (王季)

(ぶわ) (だ) (わう) (わう) ふおう たいおふ・大、き

(文王)

(ぶ) (わう) (緒を) (續) (で) ふんのふの ちよお ついて

(ひとたび) (じふ) (戒衣)

一度 十 いして 天かお たもつ

(身) (み) (てんか) (顯名) (を) (失) 右 天下の けんめいお う

(ず) (尊) (てんし) しなはず たつときこと 天子 (を)

(為) (富) (し海) (うち) たり とみ 四かいの 内お

(宗) (廟) (有) (うべ) (これを) たもつ そふひやう 是お (子息)

(郷食) (し) (これを) (保) (じ) うけ 四そく 是お やすんし

(武王) (ぶわうを) (末) (命) (を) (受) (し) (周) ふおふお いと めいお うく ちう

(公) (文) (武) (う) (ぶ) (ぶ) (徳を) (成) こふ・ふん・ふの とくお なして

(わ) (王季) (追) (王) (大王) (わう) (を) (わう) (かみ) たいおう・お、きお ついおふし 上

(先公) (うを) (祀) (てんし) せんこふお まつるに 天子の

(礼を) (以) (斯) (礼) れいお もつてす この れい

(諸候) (う) (大夫) (及) (ぶ) や しょこふ・たいふ およふ (庶人) (じ)

(士) (じ) (達) (父) (天) し・しよしんに たつす ち、たい (ほう)

(夫) (こ) (士) (ば) (葬) ふたり 子 したれば ほふ

(大夫) (を) (以) (祭) むるに たいふお もつてし ま

(士を) (以) (父) つるに しょ もつてす ち、 (葬)

(士) (こ) (大夫) (ば) (ほう) したり 子 たいふたれば ほふ

(士を) (以) (祭) むるに しょ もつてし まつるに

(大夫) (を) (以) (期) たいふお もつてす きの

(喪) (大夫) (達) (さんねん) もは たいふに たつす 三年の

(喪) (てんし) (達) (父母) (喪) (う) もは 天子に たつす ふほの もふは

第十九章

(貴賤) (無) (一) (なり) (みぎ) (第) (章)  
ぎせんとなくいつ成 右 てい 十八 生

(子曰) (武王)  
① (し) のたまはく (ぶ) (わう) (周公) (う) (其)  
ふおふ・しうこふは それ

(達孝) (う) (夫) (かう) (善)  
たつかふか それ こふは よく

(ひと) (志) (ぎ) (を) (継) (善)  
人の こゝろさしお つき よく

(ひと) (事を) (ぶ) (もの)  
人の ことお のふる物 なり

(春秋) (其) (祖) (廟) (べ)  
しんちうは その そひやうお

(脩) (を) (其) (う) (を) (陳) (宗) (器)  
おさめ その そふきお つらね

(其) (裳) (衣) (設) (其)  
その (やう) (を) (まう) (其)  
その しょふいお もふけ その

(時) (食) (宗)  
(じ) (を) (薦) (う) (べ)  
ししよくお すゝむ そふひ

(廟) (礼) (昭) (穆)  
やうの れいは (せ) (ぼ) (を)  
そうほく お

(序) (づ) (所以) (爵) (を)  
ついつる ゆへんなり しやくお

(序) (づ) (貴賤を) (辨) (ま)  
ついつるは きせんお わきもふ

(所以) (事) (を) (序) (づ) (賢)  
ゆへんなり ことお つい つるは けん

(を) (辨) (ま) (所以)  
お わきもふ ゆへんなり

(旅酬) (う) (しも) (かみ) (為)  
りよしふ 下 上の ために するは

(賤) (速) (ぼ) (所以)  
いやしきに およほす ゆへん

(毛) (まう) (を) (燕) (ず) (齒) (ひ)  
なり もふお えんするは よはい

(を) (序) (づ) (所以)  
お ついつる ゆへんなり

(其) (位) (を) (踏) (其) (礼) (を)  
その くらいお ふみ その れいお

(行)(ひ) (其) (が)(を) (奏)  
 おこない その (樂) (奏)  
 (其) (尊)(ぶ) (ところを) (敬)  
 その たつとふ 所お けいし  
 (其) (親) (ところを) (愛)  
 その したしむ 所お あいし  
 (死) (事)(う) (生)  
 しに つかふまつること せいに  
 (如) (亡)  
 (事)(う) (が)(ご) (ばう)  
 つかふまつること ことく ほふに  
 (事)(う) (存) (事)(う)  
 つかふまつること そんなに つかふ  
 (如) (孝) (至)  
 (ご) (かう) (上)  
 まつることし こふの いたりなり  
 (郊社) (礼) (じやう)  
 (かう) (礼) (じやう)  
 こふしやの れいは しよう  
 (帝) (事)(う) (所以)(なり)  
 ていに つかふまつる ゆへん 成  
 (うべ) (宗) 廟 (礼) (其) (先)  
 そふひやうの れいは その せん

第二〇章

(を)(祀) (所以)(なり)  
 おまつる ゆへん成  
 (郊社) (礼) (じやう)  
 (かう) (礼) (櫛嘗)  
 こふしやの れい ていそふ  
 (義) (明)  
 (ぎを) (明) (明)  
 の きお あきらかにして  
 (くにを) (を)(ば) (其) (諸)(を)  
 国 お おさめは それ これお  
 (如) (如)  
 (掌)(ごころ) (示)(が) (ご)  
 たな心に みるか こときか  
 (第) (章)  
 (みぎ) (じふきうしやう) (哀公)(う)  
 右 てい 十九生 あいこふ  
 (子) 曰  
 (政)(ご)(を)(問) (し) のたまはく (文)  
 まつりことお とふ (し) ふん  
 (武) (政)(ご) (布) (ほう)  
 ぶの まつりこと しいて ほふきくに  
 (在) (其)(ひと) (存)(ず)(ば) (則)  
 あり その 人 そんなすれは すなはち



(其) (政) (ご) (挙ぐ) (其) (ひと) (ぼ) (亡)  
その まつりこと あく その人 ほふ

(ず) (ば) (則) (其) (政)  
すれは すなはち その まつり

(ご) (息) (じ) (たう) (政)  
こと やむ しんとふは まつり

(ご) (を) (敏) (地道) (いゆを) (敏)  
こと お とくし ちとふに ちお とく

(夫) (政) (ご) (薄慮なり)  
す それ まつりことは ほろ成

(故) (が) (ゑ) (政) (ご) (を) (為)  
かるかゆへに まつりことお するは

(ひと) (在) (ひとを) (取) (身を)  
人に あり 人お とるに みお

(以) (道) (を) (脩)  
もつてす みち おさむるに

(身を) (以) (道) (を) (脩)  
みお もつてす みちお お

(仁) (を) (以)  
さむるに しんお もつてす

(仁) (ひと) (親) (を) (親)  
(じ) (ひと) 人 なり しゆん おした

(ず) (を) (だい) (為) (ぎ)  
しんつるお 大なりとす きは

(宜) (なり) (賢) (を) (尊)  
よろしき成 けん おたつ

(ぶを) (おほ) (なり) (親) (を)  
とふお 大い成 とす しんお

(親) (ず) (殺) (賢を)  
したしんつるの さい けんお

(尊) (ぶ) (等) (う) (礼) (生) (やう)  
たつとふの とふ れいの しよう

(ず) (ところ) (下位) (在)  
つる 所 なり かいに あつて

(かみ) (獲) (ず) (民) (え) (を)  
上に えられす たみ へて おさ

(可) (べ) (ず) (故) (が) (ゑ) (くんし)  
む へからす かるかゆへに 君子は

(以) (みを) (を) (ず) (ば)  
もつて 身お おさめすんは

(不可)(べ)(ず) (みを)(を) (脩)  
あるへからす 身お おさめん

(を)(思)(う) (以) (親)  
ことお おもふて もつて しんに

(事)(ず)(ば) (不可) (親)  
つかへつんは あるへからす しんに

(事) (を)(思)(う) (以)  
つかへんことお おもふて もつて

(ひとを)(知)(ず)(ば) (不可) (ず)  
人お しらすんは あるへからす

(ひとを)(知) (を)(思)(う)  
人お しらんことお おもふて

(以) (てんを)(知)(ず)(ば) (不可)  
もつて 天お しらすんは ある

(べ)(ず) (てんか) (達) (道) (五)  
へからす 天下の たつとふ かつ

(これを)(行)(な) (所以) (者)  
是お おこのふ ゆへんのもの

(三) (い) (くん臣なり) (父子なり)  
みつ ゆはく 君しん成 ふし成

(夫婦)(なり) (昆弟)(なり) (朋) (う)  
ふうふ成 こんてい成 ほふ

(い) (交)(は)(なり) (五) (もの)  
ゆふの ましわり成 かつ、の物は

(てんか) (達) (道) (仁) (う)  
天下の たつとふ成 ち・しん・ゆふ 三つ

(もの) (てんか) (達徳)(なり) (これを)  
の物は 天下の たつとく成 是お

(行)(な) (急)(もの)(一)(なり) (或)  
おこのふ ゆへんの物 かつ成 あるいは

(生) (が)  
うまれなからにして

(これを)(知) (或) (学) (で)  
是お しり あるいは まなんて

(これを)(知) (或) (困) (で)  
是お しり あるいは くるしんで

(これを)(知) (其) (これを)(知) (及)  
是お しる その 是お しるにお

(で) (一)(なり) (或) (やす)  
よんては かつ成 あるいは 安ん

(じ) (これを) (行) (ひ) (或)  
してはお おこない あるいは

(利) (これを) (行) (ひ) (或)  
りしてはお おこない あるいは

(勉強) (やう) (これを) (行) (な)  
めんきよふしてはお おこのふ

(其) (功) (うを) (成) (及) (で) (一) (なり)  
そのこふおなすにおよんてはいつ成

(子) 曰 (学) (好) (知) (近)  
① のたまはく(が) (を) (好) (知) (近)  
かくおこのむはちにちかし

(行) (ひを) (力) (じ)  
おこないおつとむるはしんに

(近) (恥) (を) (知) (勇)  
ちかしはしおしるはゆふに

(近) (この) (み) (もの) (を) (知) (ば) (則)  
ちかし此三つの物おしれはすなはち

(身) (を) (所) (以) (を) (知) (身) (を)  
みお おさむる ゆへんおしるみお

(脩) (を) (所以) (を) (知) (則)  
おさむる ゆへんおしれはすなはち

(ひと) (を) (治) (息)  
人お おさむる ゆへんおしる 人お

(を) (所) (以) (を) (知) (ば) (則)  
おさむる ゆへんおしれはすなはち

(てんか) (を) (治) (息) (を)  
天下・こつかお おさむる ゆへんおしる

(凡) (てんか) (国家) (を) (を) (為)  
およそ 天下・こつかお おさむるに

(九経) (有) (日) (息) (脩)  
きうけいあり ゆはくみお おさ

(なり) (てんを) (尊) (ぶ) (なり) (親)  
むる成 天お たつとふ成 しん

(を) (親) (なり) (だいじ) (を) (敬)  
おしたしむる成 大しんお けい

(なり) (ぐ) (を) (體) (なり)  
する成 くんしんお ていする成

(庶民) (を) (子) (なり) (はく) (う)  
しよみんお ことする成 百こふ

(を) (来) (なり) (遠) (人) (を)  
おきたす成 ゑんしんお

(矛盾) (なり) (諸侯) (うを) (懷) (なり)  
 (やす) (ず) (なり) (諸侯) (うを) (懷) (なり)  
 安ん する 成 しよこふお なすくる成  
 (を) (脩)  
 (身を) (を) (ば) (則)  
 みお おさむれは すなはち  
 (賢)  
 (道) (立) (てんを) (尊) (ぶ) (ば)  
 みち たつ 天 お たつとふれは  
 (ど)  
 (則) (惑) (ず) (親) (を) (親)  
 すなはち まとはつ しんお した  
 (諸交)  
 (ず) (ば) (則) (しよ)  
 しんつれは すなはち そふ  
 (大臣)  
 (昆弟) (怨) (ず) (だ) (じ)  
 こんてい うらみつ たいしん  
 (を) (敬) (ば) (則) (眩) (ず)  
 お けいすれは すなはち まよはつ  
 (群臣)  
 (ぐ) (を) (體) (ば) (則)  
 くんしんお ていすれは すなはち  
 (士) (報礼) (重) (庶民)  
 しの ほうれい おもし しよみん  
 (を) (子) (ば) (則) (はく姓)  
 お ことすれは すなはち 百せい

(工) (を)  
 (勸) (はく) (う) (来) (ば) (則)  
 す、む 百こふお きたせは すなはち  
 (財用)  
 (ぎ) (う) (足) (遠人) (を) (柔)  
 さいよふ たる ゑんしんお 安ん  
 (はう)  
 (ず) (ば) (則) (四方) (これ)  
 つれは すなはち しほふ 是に  
 (帰) (諸侯) (うを) (懷) (ば) (則)  
 きす しよこふお なすくれは すなはち  
 (てんか) (これを) (畏) (齊明) (盛服)  
 天下 是お おそる さいめい せいふくして  
 (動)  
 (礼) (非) (ぎ) (ば) (こ) (ぎ)  
 れいに あらされは うこかさるは  
 (脩) (急)  
 (身を) (を) (所以) (なり) (ぎ) (を)  
 みお おさむる ゆへん成 さんお  
 (去) (いろを) (遠) (ほぎ)  
 さり 色 お とふさけ  
 (貨) (を) (賤) (じ) (徳) (を)  
 くわお いやしんして とくお  
 (貴) (ぶ) (賢) (を) (勸) (所以)  
 たつとふは けんお す、むる ゆへん

なり (其) (位) (るを) (尊) (う)  
 その くらいお たつとふし (好悪)  
 (其) (禄) (を) (重) (う) (其) (う) (う)  
 その ろくお おもふし その こふおふ  
 (を) (同) (じ) (親) (を) (親)  
 お おなしうするは しんお した (忍)  
 (ず) (を) (勸) (所以)  
 しんつるお す、むる ゆへんなり (任使)  
 (盛) (じ) (を) (勸) (所以) (だい)  
 くわん さかに しんしするは 大  
 臣 (忍)  
 しんお す、むる ゆへんなり (所以)  
 (忠信) (禄を) (重) (う)  
 ちうしん ろくお おもふするは  
 (土) (忍)  
 (しを) (勸) (所以) (時)  
 ちお す、むる ゆへんなり ときに  
 (使) (斂) (薄)  
 (つ) (ひ) (を) (を)  
 ちかい れんお うすうするは (忍)  
 (姓) (はく) (を) (勸) (所以) (なり)  
 百 せいお す、むる ゆへん成

(日) (省) (つき) (誠)  
 ひに かへりみ 月に 心み (こころ)  
 (既稟) (事) (稱) (工)  
 きりん ことに かのふは 百こふ (はく) (う)  
 (を) (勸) (所以) (往)  
 お す、むる ゆへんなり おふお (わうを)  
 (送) (来) (を) (迎ひ) (善) (を) (嘉)  
 おくり らいお むかい ぜんお よみ (不能)  
 (は) (うを) (矜)  
 して ふのふお あわれむは (忍)  
 (遠人) (柔) (遠人)  
 (じ) (を) (やすんず) (所以) (なり)  
 むんしんお 安 する ゆへん成 (ぎ)  
 (絶世) (を) (繼) (廢国) (を) (あげ) (挙)  
 ぜつせいお つき はいこくお 上 (治)  
 (乱を) (を) (危) (ふ) (を) (持)  
 らんお おさめ あやうきお もち  
 (朝) (聘) (朝) (聘)  
 (てう) (ときを) (以)  
 ちよふへい 時 おもつてし  
 (往) (厚) (来を) (薄)  
 (わうを) あつうして らいおう

(諸) 候 (づ) (うを) (懐) (定)  
 すうするは しようお なつくる  
 (有) (所以) (なり) (凡) (てんか) (国)  
 ゆへん 成 およそ 天下・こつ  
 (為) (を) (九 経) (有)  
 家を おさむるに きうけい あり  
 かお (者) (者)  
 (これを) (行) (な) (所以) (もの) (一)  
 是 お おこのふ ゆへんの物 いつ  
 (なり) (凡) (事) (豫)  
 成 およそ こと あらかじめ  
 (ば) (則) (立) (豫)  
 すれは すなはち たつ あらか  
 (じ) (ぎ) (ば) (則) (廢)  
 しめ せされは すなはち す  
 (言) (前) (だ) (ば)  
 たる こと まへに さたまれは  
 (則) (跨) (づ) (ず) (蓋) (前)  
 すなはち つまつかつ わき まへに  
 (だ) (定) (則) (困)  
 さたまれは すなはち くるし

(ず) (行) (ひ) (前) (定)  
 ます おこない まへに さたまれは  
 (則) (疾) (ず) (信)  
 すなはち やましからず  
 (道) (前) (だ) (ば) (則)  
 みち まへに さたまれは すなはち  
 (ず) (下位) (得)  
 きはまらず  
 (る) (在) (かみ) (え) (ず)  
 かいに あつて 上に ゑられす  
 (得) (治) (可)  
 (民) (え) (を) (べ) (ず)  
 たみ へて おさむ へからす  
 (獲) (上) (道) (有)  
 かみに ゑらるゝに みち あり  
 (朋友) (ぎ)  
 (ういう) (信) (らさ) (ば) (かみ)  
 ほふゆふに しんなれは 上に  
 (獲) (え) (い)  
 (え) (ず) (朋友) (信)  
 ゑられす ほうゆうに しん  
 (道) (有) (親) (じ)  
 なるに みち あり しんに しゆん  
 (順)

な〔ら〕(ざ)ば(朋)友(いう) (信) (ず)  
されは ほうゆふに しんならず

(親) (じ) (なる) (道) (有)  
しんに しゆん 成に みち あり

(これを) (身) (反) (まこと)  
是 お みに はんして 誠 なら

(ざ) (ば) (親) (じ) (順) (ず)  
されは しんに しゆんならず

(身) (まこと) (道) (有)  
みに 誠なるに みち あり

(善) (ぜ) (明) (ならざ) (ば) (身)  
せんに あきらか 成されは みに

(誠) (ず) (誠) (てん)  
まことならず まことは 天

(道) (なり) (これを) (こと) (誠)  
の みち成 是 お 事に するは

(ひと) (道) (な) (まこと) (勉) (ず)  
人の みち成り 誠 は つとめす

(中) (思) (はず)  
して あたる おもわすし

(従) 容

(得) (しよ) (う) (道) (中)  
てう しうよふ みちに あたるは

(聖) 人 (じ) (なり) (これを) (まこと)  
せいしん成 是 お 誠 に するは

(善) (擇) (ぜ) (を) (え) (で) (固)  
せんお むらんで かたく

(これを) (執) (もの) (博)  
是 お とる物なり ひろく

(これを) (学) (び) (審) (び)  
是 お まなひ つまひらかに

(これを) (問) (ひ) (慎) (で) (これを)  
是 お とい つ、しんて 是 お

(思) (明) (明) (これを) (辨)  
おもひ あきらかに 是 お わき

(篤) (これを) (行) (な)  
まへ あつく 是 お おこのふ

(学) (びざ) (こと) (有) (これを)  
まなひさる 事 あり 是 お

(学) (で) (能) (ず) (ば) (措) (ず)  
まなんて よくせずんは おかす

(はぎ) (を) (う)  
 (問) (こと)(有) (これ) (問)  
 とわさる 事 あり 是 お とふて  
 (知)(ず)(ば)(措)(ず)(思)(は  
 しらすんは おかす おもわ  
 (を)  
 (ぎ) (こと)(有) (これ) (思)(う)  
 さる 事 あり 是 お おもふて  
 (得)  
 (えず)(ば) (措)(ず)(辨)  
 ゑすんは おかす わきまへ  
 (を)  
 (ぎ)(こと)(有)(これ) (辨)  
 さる事 あり 是 お わきまへて  
 (明) (ず)(ば)(措)(ず)  
 あきらかに せすんは おかす  
 (を)  
 (行) (ぎ)(こと)(有)(これ) (行)  
 おこなはさる事 あり 是 お お  
 (なう) (篤) (ず)(ば)  
 このふて あつく せつんは  
 (措)(ず) (ひと)(ひとたび) (これ)  
 おかす 人 一度して 是 お  
 (を)  
 (己) (これ) (百)  
 よくす おのれ 是 お も、

第二章

(び)  
 度 (ひと)(十度)  
 たひす 人 とたひして  
 (を)  
 (これ) (能) (己) (これ) (ちたび)  
 是 お よくす おのれ 是 お 千度す  
 (道)  
 (果) (この)(を) (能)  
 はたして 此みちお よく  
 (愚) (雖)  
 (ば)(ぐ) (い)(ど) (必)(ず)  
 せは くなりと ゆへとも かならず  
 (柔) (雖)  
 (明) (なり)(じふ) (い)(ど)  
 あきらか成 十なりと ゆへとも  
 (必)(ず) (強) (みぎ)(第) (にじつしやう)  
 かならず つよし 右 てい 廿 生 (章)  
 (まこと) (明) (なる) (これ) (を) (性)  
 誠より あきらか成 是 お せい  
 (謂) (明) (なる)  
 とゆふ あきらか成より  
 (まこと) (これ) (を) (教) (謂)  
 誠なる 是 お おしへと ゆふ (い)



第二章

(まこと) (ば) (則) (明) 誠なれば すなはち あきらか  
 (なり) (明) (なれ) (則) (は) (まこと) 成 あきらか成は すなはち 誠  
 (みぎ) (第) (に) (じふいつ) (しやう) (章) なり 右 てい 廿一 生し

(じふいつ) (やう) (章) 十一 じよふ ふうし 天とふじん

(を) (ことを) とふ かいお うけて 事お  
 (じふにしやう) (章) たつ 是より い 十二 生

(こと) (以) (この) (を) みなししか 事 もつて 此

(を) (至誠) (能) (其) じよふかいお はんふ すいめいす  
 (唯) (てんか) (し) (能) (其) た、 天下の 四せい よく その

(を) (性) (つく) (こと) (為) (能) (其) せいお 尽す 事お なす よく その  
 (を) (性) (つく) (ば) (則) (能) (ひと) せいお 尽せば すなはち よく 人の  
 (を) (性) (つく) (能) (ひと) (性) せいお 尽す よく 人の せい  
 (を) (つく) (則) (能) (もの) お 尽せば すなはち よく 物の  
 (を) (性) (つく) (能) (もの) せいお 尽す よく 物の  
 (を) (性) (つく) (ば) (則) (以) (てんち) せいお 尽せば すなはち もつて 天地  
 (化育) (を) (賛) (べ) (以) (可) くわいくお たすくへし もつて  
 (てんち) (化育) (を) (賛) (可) 天地の くわいくお たすく  
 (べ) (則) (以) (てんち) (能) (章) へきは すなはち もつて 天地  
 (参) (なる) (みぎ) (第) (に) (じふさん) (しやう) (章) と みつ成へし 右 てい 廿三 生

第二章

(其) (つき) (曲) (き) (を) (致) (き) (曲)  
その 次は ちよくお いたす ち

(ば) (能) (誠) (有)  
よくすれば よく ま事 あり

(誠) (有) (ば) (則) (著)  
ま事 あれば すなはち あらはる

(著) (則)  
あらはるは すなはち なり

(則) (明)  
きは すなはち あきら

(なり) (明) (ば) (則)  
か成 あきらかなれば すなはち

(動) (動) (ば) (則)  
うこく うこけは すなはち

(変) (ず) (変) (ず) (ば) (則)  
へんす へんすれば すなはち

(化) (唯) (てんか) (し) (能)  
くわす た、 天下 の 四せい よく

(化) (こと) (為) (みぎ) (第) (に) (じ) (ふ) (さん) (し) (やう) (章)  
くわする 事 なす 右 てい 廿 三 生

第二章

(至誠) (し) (みち) (以) (前知)  
四せいの道 もつて ぜんちす

(可) (べ) (国家) (将) (興)  
へし こつか まさに おこらんとす

(必) (ず) (やう) (有) (国家)  
かならず ていしよふ あり こつか

(将) (亡) (び) (必) (ず)  
まさに ほろひんとす かならず

(妖孽) (えう) (著龜) (見)  
よふけつ あり しきに あらはれ

(四體) (動) (禍福)  
していに うこく くわふく

(将) (至) (善) (必) (ず)  
まさに いたらんとす せん かならず

(先づ) (これ) (を) (知) (不善) (必) (ず)  
まつ おお する ふせん かならず

第二十五章

(先) (を) (至誠)  
 (づ) (これ) (知) (故) (が) (ゑ) (し)  
 まつ 是お する かるかゆへに 四せい  
 (神) (如) (仁)  
 じんの ことし  
 (みぎ) (第) (に) (じう) (し) (し) (やう) (まこと) (みづ)  
 右 てい 廿 四 生 誠は 水から  
 (章) (自)

(なり) (みち) (自) (みち)  
 なる成 道は みつから 道  
 (び) (なり) (こと) (もの) (終)  
 ひく成 ま事は 物のしう  
 始 (まこと) (ぎ) (ば) (もの) (無)  
 し 誠ならされは 物 なし  
 (故) (ゑ) (を)  
 (この) (くんし) (これ) (まこと)  
 此 ゆへに 君子は 是お 誠に

(を) (貴) (為) (まこと)  
 するお たつとしとす 誠に  
 (づ)  
 (自) (己) (を) (成)  
 みつから おのれお なすのみに

第二十六章

(非) (ず) (もの) (を) (成) (所以) (なり)  
 あらす 物お なすゆへん 成  
 (仁)  
 (己) (を) (成) (じ) (なり) (もの)  
 おのれお なすは しん成 物  
 (を) (知) (性) (徳) (なり)  
 お なすは ち成 せいの とく成  
 (外) (内) (は)  
 (ぐ) (を) (合) (みち)  
 くわい ないお あわすの 道なり  
 (を)  
 (故) (が) (ゑ) (とき) (これ) (措)  
 かるかゆへに 時に 是お おいて  
 (宜) (みぎ) (第) (に) (じふ) (ご) (し) (やう) (章)  
 よろし 右 てい 廿 五 生

(至誠) (息) (こと) (無)  
 (故) (が) (ゑ) (し) (息) (事) (なし)  
 かるかゆへに 四せい は やむ  
 (息) (ぎ) (ば) (則) (ひさ)  
 やまされば すなはち 久し  
 (ひさ)  
 久 しきは (則) (徴) (あり)  
 すなはち しるし 有

(徴) (ば) (則) (悠) (いう)  
 しるしあれは すなはち ゆふ  
 遠 (悠) 遠 (悠) 遠 (悠)  
 (なり) (い) (ば) (則)  
 ゑん成 ゆうゑんなれば すなはち  
 (博厚) (博厚) (博厚)  
 (はつ)(なり)(はつ) (な)(ば) (則)  
 八 こう成 八 こう成れば すなはち  
 (高明) (博厚)  
 (かう)(なり)(はつ)(う) (ものを)  
 こふめい成 八こふ 物 お  
 (高明) (悠)  
 (載) (所以)(なり)(かう)  
 のするゆへん成 こふめいは  
 (を) (ほ) (悠)  
 (もの) (覆) (所以)(なり)(い)  
 物 お おふ ゆへん成 ゆう  
 (を) (悠)  
 久 (もの) (成) (所以)(なり)  
 きうは 物 お なす ゆへん成  
 (博厚) (高明)  
 (はつうを)(地) (配) (かう)  
 八こふお ちに はいす こふめいは  
 (悠久)  
 (てん)(配) (いう)  
 天に はいす ゆふきうは  
 (ぎ) (如) (者)  
 (彊) (無) (此) (こ) (もの)  
 かきりなし かくのときき 物は

(見) (ず) (章)  
 しめさすして あらはる  
 (こ)  
 (動) (ず) (変) (ず) (為) (こと)  
 うこかすして へんす なす 事  
 (無) (成) (てんち)  
 なくして なる 天地の  
 (道) (壹言) (げ)  
 みち いつけんにして つくす  
 (可) (其) (もの) (ふた) (貳)  
 へし その 物たる 一二つ あら  
 (を) (やう)  
 (ぎ) (ば) (則) (其) (もの) (生) (ず)  
 されば すなはち その 物お しょふつる  
 (測) (ず) (てんち) (道)  
 こと はからす 天地の みち  
 (博) (厚) (高) (明)  
 ひろし あつし たかし あきらか  
 (は) (悠) (ひき) (今)  
 成 とふし 久し いま  
 (昭昭) (多)  
 (夫) (てん)(こ) (せうせう) (ほ)  
 それ 天は 子の 少々のおおき

(なり) (其) (は) (無)  
 成 その きわまり なきには  
 (及) (で) (じつ) (げつ) (星辰) (繫)  
 およんては 日・月・せいしん か、り  
 (ばんぶつ) (ほは) (今) (夫)  
 萬物 お、ある いま それ  
 (地) (一撮土) (ど) (多) (なり) (其)  
 ちは いつきつと お、き成 その  
 (広厚) (華嶽)  
 (くわうこう) (及) (で) (くわが)  
 こふこふに およんては か、  
 (を) (載) (重) (ず)  
 くお のせて おもしと せず  
 (河海) (を) (を) (洩) (ず)  
 か、いお おさめて もらさす  
 (ばんぶつ) (載) (今) (夫)  
 萬物 のす いま それ  
 (やま) (二卷) (せき) (おほ) (なり) (其)  
 山は いっけん 石の 大 き成 その  
 (広 大) (章)  
 (くわ) (だ) (及) (で) (さ)  
 こうたいに およんては そう

木 (之) (生)  
 (これ) (しやうじ) (禽)  
 もく 是に そうし きん  
 (獸) (之) (居) (法 蔵)  
 (じ) (これ) (を) (は) (さ)  
 ちう 是に おり ほうそう  
 (興) (今) (夫) (みづ)  
 おこる いま それ 水は  
 (勺) (多)  
 (いっしやく) (ほ) (なり)  
 一尺の お、き成 そのはから  
 (ぎ) (及) (で) (げ) (だ) (眼)  
 さるに およんては けん・た  
 (鮫) (よ) (魚) (鱈) (生)  
 (かう) (龍) (ぎ) (べ) (やうじ)  
 こふ・りやう・きよ・へつ しまふし  
 (貨財) (殖) (日)  
 (ぎ) (なる) (詩) (い)  
 くわさい成 しに ゆはく  
 (惟) (命) (穆)  
 (これ) (てん) (於) (ぼ)  
 是 天のめい あ、ほくと  
 (己) (ず) (蓋) (てん)  
 して やます けたし 天の  
 (てん) (所以) (を) (なり) (於乎) (顯)  
 天たる ゆへんお いふ 成 あ、あき

(文王) (ぶ) (わう)  
らか成さらんや ふんのふ

(徳) (純) (ば) (なる)  
の とくの もつはら成

(だ) (文王) (文)

(蓋) (ぶ) (わう) (ぶ)  
けたし ふんのふの ふんたる

(所以)

(る) (純) (ば)

ゆへん もつはらにして

(亦) (已) (ぎ) (を) (い) (みぎ) (第)

また やまさるお ゆふ 右てい

(に) (じ) (ふ) (り) (く) (し) (やう) (お) (ほ) (なる)

廿 六 生 大い 成かな (聖じん) せいじん

第二十七章

(洋洋乎)

(道) (やう) (やう) (ばん)  
の みち よふよふとして 万

ぶつを) (発) (育) (峻) (てん)  
物 お はついくして たかし 天に

(優) (優) (乎)

(極) (い) (う) (い) (う)  
いたれる ゆふゆふとして

(哉)

(お) (ほ) (なる) (礼儀) (さん) (び) (やく)  
大い 成かな れいぎ 三 百

(威儀) (を)

(る) (ぎ) (さん) (ぜん) (其) (ひと) (待)  
いき 三 千 その 人お まつて

(而) (う) (後) (行)

しかふして のちに おこなふ

(故) (が) (る) (い) (荀)

かるか ゆへに ゆはく いやしくも

(至) (徳) (ぎ) (ば) (至) (道) (だう)

しゆとくならされは しとふ

(凝) (ず) (故) (が) (る) (くん) (し)

ならず かるかゆへに 君子は

(徳性) (を) (尊) (で) (問)

とくせいお たつとんて ぶん

(学) (道) (く) (わ) (う) (だ) (を) (致)

がくに よる こふたいおいた

(精微) (高明)

して せいひお 尽す こふめいお

(庸)

(極) (ち) (う) (う) (道) (故) (を)  
きはめて 中よふに よる ふるき

(を) (温) (づ) (新) (を) (知)  
 お たつねて あたらしきお する  
 (敦厚) (うを) (以) (礼を) (崇)  
 とんこふお もつて れいお たつ  
 (ぶ) (是) (多) (かみ) (る) (居) (驕)  
 とふ このゆへに 上に いて おこらす  
 (為) (しも) (倍) (ず) (くに) (道)  
 下として そむかす 国 みち  
 (有) (其) (言) (以) (興)  
 あるに その こと もつて おこ  
 (足) (くに) (道) (無)  
 るに たれる 国 みち なきには  
 (其) (黙) (以) (容) (足)  
 その もく もつて いる、に たれり  
 (詩) (日) (既) (明) (且)  
 しに ゆはく すてに めい かつ  
 (哲) (以) (其) (身) (やす) (ず)  
 てつ もつて そのみお 安んすと  
 (其) (此) (謂) (みぎ) (第) (に) (じ) (ふ) (し) (ち) (し) (や) (う)  
 それ このの い、か 右 てい 廿 七 生 (章)

第二十八章

(子) (曰) (愚) (自) (用) (ひ)  
 (し) のたまはく (ぐ) (みづ) (水) (から) (も) (ち) (い) (る)  
 (し) くにして

(好) (賤)  
 こと このみ いやしうして

(自) (専) (ぼ)  
 みつから もつはらに すること

(を) (好) (今) (世) (生)  
 お このみ いまの よに うまれて

(古) (道) (反) (此)  
 いにしへの みちに かへる かくの

(如) (哉) (其) (身) (及)  
 (ご) (もの) (ぎ) (は) (ひ) (其) (身) (及)  
 ことき物 わさわい その みに お

(ぶ) (もの)  
 よふ物 なり

(てん) (非) (ぎ) (ば) (礼) (を) (ぎ) (ず)  
 天子に あらされは れいお きせす  
 (度) (制) (文) (議)

(どう) (ず) (ぶ) (を) (考) (が) (ず)  
 とふせいせず ふんお かんかへす

(今) (てん) (車) (軌) (を) (下)  
 いま 天から くるまの あとお  
 (ど) (書) (文)  
 (おな) (ず) (よ) (ぶ) (を)  
 同しうせつ しやう ふんお  
 (ど) (行倫) (を)  
 (おな) (かうり)  
 同しうし こふしんお  
 (ど) (有) (る)  
 (おな) (其) (位) (有)  
 同しうす その くらい ありと  
 (雖)  
 (い) (ど) (苟) (其) (徳)  
 ゆへとも いやしくも その とく  
 (無) (ば) (敢) (礼樂) (を)  
 なければ あへて れいかくお  
 (作) (ず) (其) (徳) (有) (い) (雖)  
 つくらす その とくありと ゆへ  
 (ど) (苟) (其) (位) (無)  
 とも いやしくも その くらい なけ  
 (ば) (亦) (敢) (礼樂) (作) (ず)  
 れは また あへて れいかく つくらす  
 (子) (曰)  
 (し) (の) (たまはく) (吾) (夏) (礼を) (説) (杞)  
 われ かの れいお とく き

第二十九章

(徴) (足) (ず) (吾)  
 しるしと するに たらす われ  
 (殷) (礼を) (学) (ぶ) (宋) (う)  
 いんの れいお まなふ そふの  
 (在) (を) (有) (吾) (周)  
 そんなるお あり われ しう  
 (礼) (学) (ぶ) (今) (これ) (を)  
 れいお まなふ いま 是 お  
 (用) (る) (吾) (周) (従) (がは)  
 もちいん われ しうに したかわん  
 (右) (第) (章) (下) (わう)  
 (みぎ) (に) (じふ) (は) (つ) (し) (やう) (てん) (王) (おほ)  
 右 てい 廿八生 天かに 大たるに  
 (重) (い) (ふ) (其) (過) (寡)  
 三十あり それ あやまち すく  
 (乎) (かみ) (もの) (善)  
 ないかな 上たる 物は よし  
 (雖) (い) (ど) (徴) (無) (徴)  
 と ゆへとも しるし なし しるし



(無) (な) (ば) (信) (ぜ) (ず)  
かければ しんせられす

(信) (ぜ) (ぎ) (ば) (民) (従)  
しんせられされは たみ した

(が) (はず) (しも) (もの) (善) (い) (雖)  
かわす 下たる物 よしと ゆへ

(ど) (尊) (ず) (尊)  
とも たつとからす たつと

(ぎ) (ば) (信) (ぜ) (ず)  
からされは しんせられす

(信) (ぜ) (ぎ) (ば) (民) (従) (が) (はず)  
しんせられされは たみ したかわす

(故) (が) (ゑ) (くんし)  
かるかゆへ(に) 君子の

(道) (これ) (身) (本) (づ) (これ)  
みちは 是お みに もとつけ 是

(を) (庶民) (徴)  
お しまんに しるし

(これ) (三王) (わう) (考) (が)  
是 お さんのふに かんかへて

(繆) (ず) (これを) (てんち)  
あやまらす 是 お 天地に

(建) (悖) (ず) (だ)  
たて、 みたれす (鬼神) (だ)

(これを) (鬼) (質) (疑)  
是 お きしんに た、して うた

(が) (ひ) (はく) (以) (聖)  
かいなし 百せい もつて せい

(じ) (を) (俟) (惑) (ず) (ど)  
しんお まつて まとはつ

(これを) (鬼神) (だ) (質)  
是 お きしんに た、して

(疑) (が) (ひ) (てんを)  
うたかいなきは 天 お

(知) (はく) (以) (世)  
しるなり 百せい もつて

(聖) (じん) (俟) (惑) (ぎ) (ど)  
せい人 お まつて まとはさるは

(ひと) (知) (しるなり)  
人 お しるなり

(この)(故) (くんし) (動)  
此 ゆへに 君子は うごいて

(世) (てんか) (道)(為)  
よ、 天下の みちたり

(行)(なう) (世) (てんか)  
おこのふて よ、 天下の

(法) (言) (世)  
のりたり ゆうて よく

(てんか) (則) (これ) (遠)  
天下の のりたり 是 お とふ

(ぎ) (ば) (則) (望)  
さくれば すなはち のそむ

(こと)(これ) (近)(づ) (ば)  
事あり 是 お ちかつくれは

(則) (厭) (ず) (詩) (い) (日)  
すなはち いとはつ しに ゆはく

(彼) (在) (悪) (こと)  
かれに あつて にくまる、事

(無) (此) (在) (射)  
なし こゝに あつて いとはる、

第二〇章

(こと)(無) (庶幾) (ひ)(が)  
事 なし こいねかはくは

(夙夜) (以) (永) (譽)  
しくや もつて なかく ほ

(を)(を) (くんし) (未)(だ) (ず)  
まれお おへん 君子 いまた あらす

(此) (如) (者) (蚤) (てん)  
かくのことくならずして はやく 天

(下) (譽) (有)(もの) (有)(ず)  
かに ほまれ ある物 は あらす

(みぎ)(第) (に) (じふくしやう) (仲尼) (ち)  
右 てい 廿九生 ちうし

(堯) (舜を) (祖述) (じゆ)  
けう・しんお そづつし

(文) (武) (憲) (憲)  
ふん・ふお けん

(やう) (かみ)(てんじ) (律)  
しよふす 上 天しんに のつ

とり 下 すいと (しも) (水土) (襲) (辟) (ば)  
 (持載) による たとへは  
 (てんち) (ち) (ぎ) (無)  
 天地の ちさいせきること なく  
 (たう) (たう) (如)  
 (覆 擣) (ぎ) (無) (が) (ご)  
 ふんとふ せきること なきか ことし  
 (辟) (ば) (四時) (錯) (ひ)  
 たとへは しいしの たかいに  
 (如) (如)  
 (行) (が) (ご) (じつげつ)  
 おこなはるか ことし 日月の  
 (は) (は)  
 (代) (がはる) (明) (が) (が)  
 かわるかわる あきらかなるか  
 (如) (如) (ばんぶつ) (竝) (び) (い) (育)  
 ことし 萬物 ならひ ゆく  
 (ひが) (ひが)  
 (相 害) (ず) (道) (竝) (び)  
 して あいかいせず みち ならひ  
 (行) (は) (相 悖)  
 おこなわれて あいもと  
 (小徳) (小徳)  
 (ず) (せ) (川流)  
 らす そうとくは せんりう

第三章

(大徳) (くわ)  
 (だ) (敦化)  
 したいとくは とんかす  
 (これ) (てんち) (おほ) (なり)  
 是 天地の 大い成と する  
 (所以) (章)  
 (ゑ) (みぎ) (第) (さんじふしやう)  
 ゆへん成 右 てい 卅 しょふ  
 (だ) (てんか) (至聖) (能)  
 (唯) (天下の) (しせい) (よく)  
 た、 (聰明) (叡知)  
 (そう) (え)  
 しょふめい ゑいちにして  
 (ぞ) (有) (足)  
 (以) (臨) (有) (足)  
 もつて のそむこと あるに たり  
 (寛裕) (い) (溫柔) (じふ)  
 くわんゆう おんゆうにして  
 (以) (容) (こと) (有) (足)  
 もつて いる、事 あるに たり  
 (発 強 剛 毅)  
 (はつ) (やう) (こう) (以)  
 八きよふ こふきにして もつて

(執) (有) (足) (文理)  
とること あるに たり ふんり

(密察)  
(み) (以) (別)  
に つきつ にして もつて わかつ

(有) (足) (之)  
こと あるに たれりとす くはく

(淵泉) (とき) (これを)  
(え) ゑんせんにて 時に 是 お

(出) (博博) (てん) (ご)  
いたす ふはくは 天の ことし

(淵泉) (淵) (ご) (見)  
えんせんは えんの ことし あら

(民) (敬) (ぎ)  
はれて たみ けいせさる

(言) (莫) (いう) (民) (信)  
ことなし ゆふて たみ しん

(ぎ) (莫) (行) (なう)  
せさること なし おこのふ

(民) (説) (ばぎ)  
て たみ よろこはさること

(莫) (是を) (以) (声) (名)  
なし こ、おもつて せいめい

(国) (洋) (溢) (施)  
(ちうご) (や) ひい

(蠻) (豹) (及) (ぶ) (舟)  
中こくに よういつし ふう

(車) (至) (ところ) (てん) (覆)  
しやの いたる所 天の お、 所

(ち) (くわ) (ところ) (じつ) (げつ) (照)  
地の かする所 日月の てら

(霜) (露) (隊) (ところ)  
(ところ) (さ) おつる所

(者) (凡) (血) (気) (有) (もの) (尊)  
およそ けつき ある物 そん

(信) (ぎ) (莫) (故) (が) (る) (る)  
しんせさること なし かるかゆへに

(てん) (配) (い) (みぎ) (第) (さん) (じ) (ふい) (し) (やう) (章)  
天に はいす とゆふ 右 てい 卅 一 生

第三二章

(唯) (下) (至誠) (下)

(だ) (てん) (し) (能) (てん) (たい)

た、天かの四せいよく天かの大

(を) (を) (たて) (てんし) (化育) (を) (知)

本お立天子のくわいくおしる

(を) (為) (夫) (焉) (ぞ) (倚)

ことおなすそれいつくんそよる

(ところ) (有) (じ) (純純) (淵)

所あらんしゆんしゆんたる

(仁) (淵淵) (其) (淵)

(其) (じ) (え) (えん) (其) (え)

そのしんゑんゑんたるそのゑん

(う) (う)

(浩博) (其) (天) (荀)

こふこふたるそのてんいやしくも

(固) (まこと) (聰明) (聖地)

誠にそうめいせいちにして

(徳) (者)

(てん) (達) (もの) (ぎ)

天とくにたつする物にあらされ

(ば) (其) (孰) (能) (これ) (知)

はそれたれかよくはおしらん

(第) (章) (日)

(みぎ) (さんじふじしやう) (詩) (い)

右てい三十二生しにゆはくにし

第三章

(はふ)

(を) (衣) (綱) (を) (尚) (其)

きおきてけいおくお、その

(文) (著) (は) (を) (悪) (なり) (故)

ふんのあらわるおにくむ成かる

(が) (急) (くんし) (道) (闇)

かゆへに君子のみちはあん

(せ) (然) (ひび) (章) (ぶ)

せんとして日々にほろふ

(くんし) (道) (淡) (厭)

君子のみちはたんにい

(ず) (簡) (文)

とはすかんにしてふんおんにして

(理) (遠) (近) (を) (知)

りとふきのちかきおしり

(風) (自) (を) (知) (び) (顕)

ふうのよるおしりひのあき

(なる) (与) (徳)

らか成おともにとくに

(可) (云) (潜)  
(いるべ) (詩) (い) (い) (い)  
入へし しに ゆはく かかれて  
(雖) (孔) (之)  
(伏) (い) (ど) (はだ) (これ)  
ふすと ゆへとも はなはな 是

(昭) (なり) (故) (が) (忍) (くんし)  
あきらか成 かるかゆへに 君子

(うち) (省) (疾) (ぎ) (ば)  
内に かへりみて やましからされは

(こころ) (悪) (無) (くんし)  
心さし にくむ ことなり 君子

(及) (ぶ) (べ) (ぎ) (ところ) (もの)  
の およふ へからざる 所の物は

(其) (唯) (ひと) (見) (ところ) (詩)  
それた、 人の みざる所か し

(云) (室)  
(い) (爾) (ぢ) (し) (在) (を)  
に ゆはく なんしの ひつに あるお

(相) (を) (愧) (ぢ) (ず)  
みて おくろうに はしつか

(故) (忍) (くんし) (動) (ず)  
る、ゆへに 君子は うこかす

(言) (敬) (い) (ず)  
して けい ゆはすして

(信) (詩) (い) (言)  
しん しに ゆはく

(假) (い) (無) (奏)  
いたつて ゆふこと なし そふ

(とき) (争) (有) (靡)  
時に あらそふ ある こと なし

(この) (故) (忍) (くんし) (賞) (ず)  
此 ゆへに 君子は そふせつ

(民) (勸) (怒)  
して たみ すむ いから

(ず) (民) (鉄鉞)  
すして たみ ふへつより

(威) (詩) (い) (頭)  
おつ しに ゆはく あきらか

(ぎ) (これ) (徳)  
ならさらんや 是 とく

(はく) (辟) (其) (これを) (刑)  
百へき それ 是 おりとる

(故)

(この)(急)

(くんし)

(篤)

此ゆへに

君子はとつ

(下)(ひ)

恭

(てん)

(平)

きよふして天かたいらか

(日)

(なり)(詩)(い)

(予)(明)

成しにゆはくわれめい

(急)

徳(を)

(懐)

(声)

(色)(を)

とくおおくこへと

いろとお

(子)(日)

(おほ)

(ず)

(しのたまはく)

(声)(色)

大いにせつ

(化)

(以)

(民)(を)

(くわ)

(於)

もつて

たみお

かするに

おけ

(急)

(日)

(こと)(未)

(詩)(い)

る事すへなりしにゆはく

(徳)

(輶)(こと)

(毛)

とくの

かるき事

けの

(如)

(ほ)

(ご)

(毛)(猶)

(倫)(あり)

ことし

けなおは

りん有

(上)

(じやう)

(てん)(載)

(声)

(無)

そふ

天の

ことは

こゑも

なく

(臭)(無)

(至)(矣)

かもなし

(章)

(子思)(前)

(みぎ)(第)

(さんじふちんしやう)

右てい卅三生

し、せんし

第三四章

章

(やう)(極)(地)

(言)(因)

よふきよくちのことに

(其)

(復)(が)

(もとを)

(求)(また)(下学)

その本おもとめ又かく

(己)(が)(為)

よりおのれかためにし

(獨)(を)

(事)(自)

ひとりおつ、しむの

(推)

(之)(を)(言)

(す)けいして

(これ)

(い)

是おゆふもつて

(篤)(恭)(う)

(下)

とつきよふして

(以)

天か

(平)

たい

(なる)

(盛)(なる)(じ)

らか成のさかん成にし

(駟)

致(其) 妙(を)  
ゆんちし その めうお

贊(声) 無(臭)  
さんして こゑも なく かも

無(至) 而(う)  
なし いたつて しかふ

(のち) (已) (蓋)  
して 後に やむ けたし

(二) 篇(要) (げ)  
いつへんの 用お あけて

(これ) (其) (反)  
はお つくして その はん

復(丁 寧) (ひと)  
ふく ていねいにして 人に

(示) (意) (至)  
しめすの い いたつて

(深切) (なり) (が) (学者)  
しんせつ成 かくしや

(其) (こころ) (尽) (ぎ) (可)  
それ 心お つくさざる へ

けんや (庸)  
中(ちう) (う)  
よふ (章句)  
しよふく (やう)